

自動ルビ振り for Word 操作マニュアル

第 6.0 版

2026 年 09 月 05 日

オーク・テクニカル・ソフト

改訂履歴

No.	改訂日	版数	改訂箇所	内容
1	2014/03/21	2.0		初版
2	2015/08/02	2.1	はじめに	試用期間とライセンスキー登録について追記
3	〃	〃	7	[ルビ書式設定]ダイアログの設定内容の変更
4	2015/11/13	2.2	旧 1.1 削除	図 1-3、図 1-4 のメニューに[ルビ変更]を追加
5	〃	〃	1.1 (旧 1.2)	図 1-1 [ルビ変更]アイコンを追加
6	〃	〃	4	ルビ変更を追加
7	〃	〃	6	ルビ変更を追加したため、見出し番号を 1 アップ
8	〃	〃	7	同上
9	〃	〃	8	同上
10	〃	〃	10	同上
11	2015/11/28	〃	3	2 通りの操作方法を追記
12	2016/09/03	3.0	旧 1.1 削除	図 1-3、図 1-4 メニューに[未習漢字検索]、[未習漢字ルビ]コマンドを追加
13	〃	〃	1.1 (旧 1.2)	図 1-1[未習漢字検索]、[未習漢字ルビ]アイコンを追加
14	〃	〃	2	図 2-1[ユーザー設定]ダイアログに[ルビ振りタイプ]リストボックスを追加
15	〃	〃	2	「エラー時にメッセージダイアログを表示しない」を追記
16	〃	〃	3	「未習漢字簡易ルビ振り」を追加
17	〃	〃	3.3	『ルビ振りタイプが「すべての漢字にルビを振る」に設定されている場合に限りです。』を追加
18	〃	〃	3.3	「未習漢字簡易ルビ振り」新規追加
19	〃	〃	4	「未習漢字ルビ振り」新規追加
20	〃	〃	11	「エラーメッセージ」を追記
21	2018/02/26	3.1	はじめに	[ライセンスキー登録]ダイアログに[申込番号]テキストボックスを追加
22	〃	〃	2	図 2-1 [ユーザー設定]ダイアログに[振り仮名]リストボックスを追加
23	2019/10/01	3.2	1.2	[片仮名ルビふり]コマンドに関する文言を追記
24	〃	〃	2	項番⑤のルビ振りタイプに、注釈(※1)を追記
25	〃	〃	2	項番⑥の振り仮名に[片仮名ルビふり]コマンドに関する文言を追記
26	〃	〃	3	<u>ルビ振り範囲を選択する場合</u> 項番(2)に[片仮名ルビふり]コマンドに関する文言を追記 <u>ルビ振り範囲を選択しない場合</u> 項番(2)(4)に[片仮名ルビふり]コマンドに関する文言を追記
27	〃	〃	4	文言「なお未習漢字の検索は、文部科学省…」を追記
28	2020/04/24	3.3	1.1	図 1-1 リボンに[その他]グループを追加
29	〃	〃	1.1	図 1.3 コマンドの説明を追加

30	〃	〃	1.1	図 1.4[バージョン情報]ダイアログの追加
31	〃	〃	11	共通操作を追加
32	2020/06/15	〃	2	図 2.1 [ユーザー設定]ダイアログに[既定に戻す]コマンドボタンを追加
33	2020/10/30	3.4	全体	リボン、ダイアログ、メッセージボックスについて、イメージを Word 2013 から Word 365 に変更
34	〃	〃	全体	[自動ルビ振り]タブ内のアイコンのイメージを一部変更。
35	〃	〃	1	[アドイン]タブからの操作を削除
36	〃	〃	1	(1)⑤ [ルビ色変更]コマンドを追加
37	〃	〃	1.3	ショートカットからの操作 を追加
38	〃	〃	2	図 2-1 [ユーザー設定]ダイアログに[ルビ文字サイズ補正]チェックボックスを追加
39	〃	〃	2	図 2-1 [ユーザー設定]ダイアログに[ルビ色変更後の文字の色]リストボックスを追加
40	2021/02/01	〃	1.1	(5) 変換辞書共有 (法人・団体ユーザー専用機能) を追加
41	〃	〃	9.1	(3) 文言「あらかじめ想定される分割箇所…」を追加
42	2021/05/11	3.5		自動ルビ振りプログラムの最適化を実施。 操作および機能については 3.4 版から変更なし
43	2021/06/27	4.0	2	⑧[高速ルビ振り]オプションの追加
44	2023/01/14	4.1	全体	メニュー、ダイアログ、メッセージボックスについて、イメージを最新バージョンに変更
45	〃	〃	2	⑨[高速ルビ振り時の変換辞書登録]オプションの追加
46	〃	〃	2	⑭[漢字 2 文字以上の単語を変換辞書登録]オプションを削除。変換辞書登録は漢字 2 文字以上の単語に限定する
47	〃	〃	2	⑭[構文解析拡張機能]オプションを追加
48	〃	〃	8	高速ルビ振り時の変換辞書登録機能の追加
49	〃	〃	9.1	図 9-1 正確な分割位置にスラッシュを挿入不可なため、子文字の分割位置の挿入は行わない。 (3) 同様に「子文字の分割位置挿入は行わない」と文言を変更した
50	2023/07/22	5.0	—	高速ルビ振り機能の削除。Windows の Excel 関数呼び出し時のオーバーヘッドが改善され、本アプリケーションでの高速化の必要性がなくなったため
51	〃	〃	2	図 2-1 [ユーザー設定]ダイアログの変更。 ・[高速ルビ振り]チェックボックスの削除 ・[高速ルビ振り時の変換辞書登録]チェックボックスの削除 ・[変換辞書登録]チェックボックスの追加

52	2023/07/22	5.0	9	見出しを「高速ルビ振り時の変換辞書登録」から「ルビ振り時の変換辞書登録」に変更し、本文の内容も変更した
53	〃	〃	13.5	見出し「Word に起因するエラー」を追加した
54	2024/10/03	5.1	9	「変換前の子文字の修正と変換辞書登録について」、 「変換辞書に登録できない単語のルビ振り時の誤変換対策について」を追記
55	2024/12/10	5.2 ※未公開	—	<u>トラブル対応</u> ※機能的に 5.1 版との違いはありません 1) 「ステロイド外用薬」などカタカナと漢字が混在している単語で、「外用薬」を変換辞書登録していても正しくルビが振られない 2) 文字列「【使用するべきではない薬】」など記号で終わる文字を含む単語にルビを振るとエラーになる 3) 変換辞書に 32767 件を超えて登録できない 4) 半角英数字と漢字を含む単語について正しくルビが振られない
56	2025/02/08	5.3	—	単語抽出の精度を向上させた。 ※機能的に 5.1 版との違いはありません
57	2025/11/05	5.4	—	<u>トラブル対応</u> ※機能的に 5.1 版との違いはありません 1) Windows11 で曜日が正しく処理されない。 例「26 日 (月)」が「げつ」にならず「つき」になる 2) 漢数字「〇」を漢字として扱わないようにした
58	2026/01/26	5.5 未公開	—	[インポート WebXML] コマンドで HTTP サーバーに配置されている変換辞書 XML データをインポートすると、一部のデータが文字化けする問題の対応。 ※機能的に 5.1 版との違いはありません
58	2026/01/26	5.5 未公開	—	<u>誤変換対応</u> ※機能的に 5.1 版との違いはありません 1) 「7 % 減少し」が「7 % 減(げん)少(すこ)し」になる 2) 「重助」と「助役」が変換辞書に登録されているとき、「重助役...」の文字列が「重(しげる)助役(じょやく)...」になる。「重助(じゅうすけ)役(やく)...」になるようにする 3) 「価格」と「訴求」が変換辞書に登録されているとき、「価格訴求へ...」の文字列が「価格訴求(かかくそきゅう)へ...」になる。「価格(かかく)訴求(そきゅう)へ...」になるようにする 4) 「信勝」が変換辞書に登録されているとき、「信勝役...」の文字列が「信勝役(のぶかつやく)...」になる。「信勝(のぶかつ)役(やく)...」になるようにする 5) 「弱伸びて...」が「弱(じゃく)伸(の)びて...」にならず、

				「弱伸(じゃくしん)びて...」になる。 6)「投開票」が変換辞書に登録されているとき、「15日投開票...」の文字列が「15日投(にちとう)開票(かいひょう)...」になる。 「15日(にち)投開票(とうかいひょう)...」になるようにする 7)「前大統領」「前防衛大臣」などを辞書登録しないで処理できるようにする
59	2026/02/05	6.0	5	5 編集を追加
60	〃	〃		全体的に書き直し

目 次

はじめに	1
1. 操作方法	1
1.1. [自動ルビ振り]タブからの操作.....	1
1.2. ショートカットメニューからの操作	4
1.3. ショートカットキーからの操作	5
2. ユーザー設定.....	6
3. ルビ振り	11
3.1. グループルビ振り	16
3.2. モノルビ振り	16
3.3. 総ルビ振り	17
3.4. 未習漢字簡易ルビ振り	17
3.5. 初出ルビ振り	18
4. 未習漢字ルビ振り	21
4.1. 未習漢字検索	21
4.2. 未習漢字ルビ	21
5. 編集.....	24
5.1. 一括ルビ振り	24
5.2. 一括ルビ検索	26
5.3. 一括ルビ置換	29
5.4. 一括ルビ削除	32
6. ルビ変更	35
7. ルビ削除	37
8. 書式変更	39
9. ルビ振り時の変換辞書登録.....	40
10. 変換辞書登録・削除・訂正	44
10.1. 変換辞書への単語登録.....	44
10.2. 変換辞書から単語削除	45
10.3. 変換辞書登録済単語の訂正.....	47
11. 変換辞書の保守.....	48
11.1. 初期化.....	48
11.2. エクスポート	49

11.3.	インポート	50
11.4.	最適化	52
12.	共通操作	53
12.1.	元に戻す	53
12.2.	やり直し	54
13.	エラーメッセージ	55
13.1.	文字数エラー	55
13.2.	フィールドエラー	55
13.3.	表の列選択エラー	55
13.4.	図形選択エラー	56
13.5.	WORD に起因するエラー	56

はじめに

本アプリケーションは、インストール後1ヶ月間、試用版としてご利用いただけます。試用期間中は未習漢字ルビ振りを除くすべての機能が使用可能です。継続してご利用いただくには、Vector(または作者)よりライセンスキーを取得し、登録を行ってください。

試用期間中に Word 文書を開き、最初のルビ振り(またはルビ削除)を実行すると、[ライセンスキー登録]ダイアログが表示されます。

試用版としてご利用になる場合、[試用]ボタンをクリックしてください。試用期間内であれば、そのままルビ振り機能を使用できます。

ライセンス登録を行う場合、Vector(または作者)から送られてきた申込日、申込番号、ライセンスキーを各テキストボックスに入力し、[登録]ボタンをクリックしてください。ライセンス登録が完了した場合、次回から[ライセンスキー登録]ダイアログは表示されません。

本アプリケーションを再インストールする際は、再度ライセンスキーの登録が必要です。申込日、申込番号、ライセンスキーは大切に保管してください。

ライセンスキー登録

申込日:

申込番号:

ライセンスキー:

yyyy/mm/dd の形式で、半角数字と半角スラッシュで入力します。
例) 「2018/02/26」 または 「2018/2/26」

半角英数字を大文字で 11 文字入力します。
例) 「CVRTHJR1234」

半角英数字および半角記号を大文字と小文字で入力します。
例) 「j#78Gw%kLf7B@h」

試用 登録 キャンセル

[ライセンスキー登録]ダイアログ

1.操作方法

本システムの操作は、Word のリボンインターフェース上に新たに追加される[自動ルビ振り]タブを基本とし、さらにショートカットメニュー（右クリックメニュー）、およびショートカットキーから行います。

1.1.[自動ルビ振り]タブからの操作



図 1-1 リボンの[自動ルビ振り]タブ (Word 365 の場合)



図 1-2 リボンの[自動ルビ振り]タブ (Word 2013 の場合)

[自動ルビ振り]タブは、8 グループに分類され、直感的に操作できるアイコンとして配置しています。

・機能の説明（スクリーンヒント）

各アイコンにマウスカーソルを合わせる（ポイントする）と、そのコマンドの簡単な説明が表示されます（図 1-3）。

・アイコンのデザインについて

アイコンのデザインは Word のバージョンによって多少異なりますが、実行される処理内容はすべてのバージョンで共通です。本マニュアルでは、Word 365 の画面構成を例に説明します。



図 1-3 コマンドの説明（スクリーンヒント）

以下に、各グループの処理内容を説明します。

(1) 良く使用するコマンド

① [ルビ振り]コマンド

選択範囲内の漢字にルビを振ります。実行中に再度クリックすると、処理を中断できます。

② [ルビ変更]コマンド

選択範囲内のルビを変更します（Word標準機能）。

③ [ルビ削除]コマンド

選択範囲内のルビを削除します。

④ [書式変更]コマンド

選択範囲内のルビの書体、サイズ、オフセット（ルビと文字の間隔）、配置を一括で変更します。

⑤ [ルビ色変更]コマンド：選択範囲内のルビの文字色を変更します。

(2) 編集

① [一括ルビ振り]コマンド

選択範囲内の特定の単語に対して、指定したルビを一括で振ります。

② [一括ルビ検索]コマンド

指定したルビ付き単語を、選択範囲内から検索します。

③ [一括ルビ置換]コマンド

選択範囲内の特定の単語に振られたルビを、指定したルビへ一括で置換します。

④ [一括ルビ削除]コマンド

選択範囲内の特定の単語に振られたルビのみを一括で削除します。

(3) 未習漢字ルビふり

① [未習漢字検索]コマンド

設定した学年で習っていない漢字（未習漢字）を検索し、背景色を黄色に設定します。

② [未習漢字ルビ]コマンド

背景色が黄色に設定された箇所を確認しながら、手動でルビを設定します。

(4) 初出ルビ

① [履歴削除]コマンド

初出ルビ振りで使用した履歴を初期化します。詳細は「3.5初出ルビ振り」をご参照ください。

② [履歴復元]コマンド

選択範囲内のルビ設定状況から、初出ルビの履歴を再構築します。

(5) 変換辞書

① [登録・削除・訂正]コマンド

グループルビからモノルビへ変換する際に参照する変換辞書への単語登録・削除・訂正を行います。

② [初期化]コマンド

現在の変換辞書を破棄し、新規作成します。※登録済みのデータはすべて消去されます。

③ [インポート]コマンド

外部のテキストファイルから変換データを取り込みます。同一単語が既に変換辞書にある場合は上書きされません。

④ [エクスポート]コマンド

変換辞書をバックアップとしてテキストファイルに出力します。

⑤ [最適化]コマンド

長期間の使用で肥大化した変換辞書ファイルを整理し、動作速度を改善します。

※ 最適化前の変換辞書のデータは保持されます。

(6) 変換辞書共有（法人・団体ユーザー専用機能）

詳細は別冊「変換辞書共有機能ガイド」（法人・団体ユーザー向けドキュメント）をご参照ください。

① [インポート WebXML]コマンド

インターネット上のユーザー専用 Web サーバーからバージョン管理された XML 形式の変換辞書をダウンロードし、変換データを変換辞書に追加登録します。なお初期設定は弊社の Web サーバー上の最新のサンプル変換辞書が設定されています。

② [エクスポート XML]コマンド

変換辞書を XML 形式のテキストファイルとして、指定したフォルダ内に出力します。

(7) ユーザー設定

① [ユーザー設定情報表示]コマンド

ユーザー固有の情報（ルビの書式、モノルビ機能のオン・オフ、初出ルビ機能のオン・オフ、変換辞書の保存フォルダなど）を設定します。詳細は「2. ユーザー設定」をご参照ください。

※ インストール時に最適化されているため、通常はそのままの設定でご使用いただけます。

(8) その他

① [バージョン情報表示]コマンド

プログラムのバージョンや、サポート窓口（開発者連絡先）を確認できます（図 1-4）。

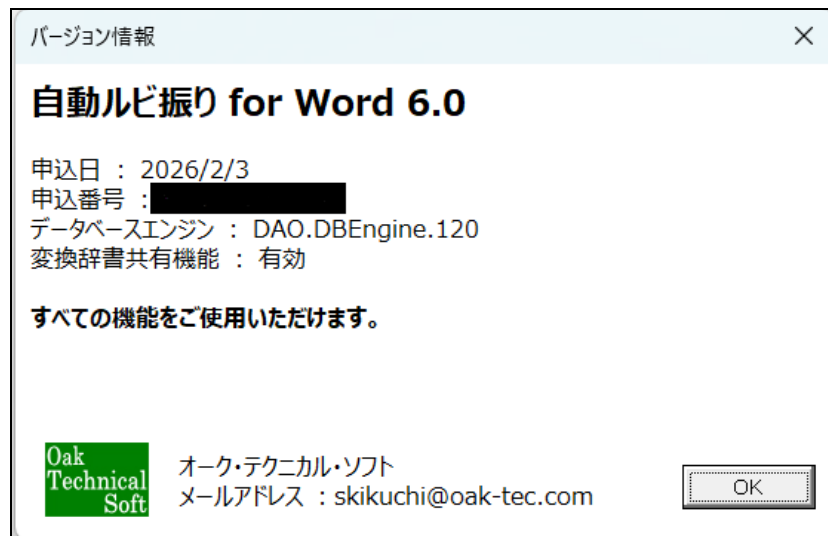


図 1-4 [バージョン情報]ダイアログ

1.2. ショートカットメニューからの操作

文章内の文字列を選択して右クリックすると、選択範囲の状態に応じて、ショートカットメニューに本ツール専用のコマンドが表示されます。

選択範囲内にルビが存在しない場合

[ルビふり]コマンドと[片仮名ルビふり]コマンドが表示されます（図 1-5）。

※ [片仮名ルビふり]は、ショートカットメニュー限定の機能です。リボンの[自動ルビ振り]タブには配置されていません。

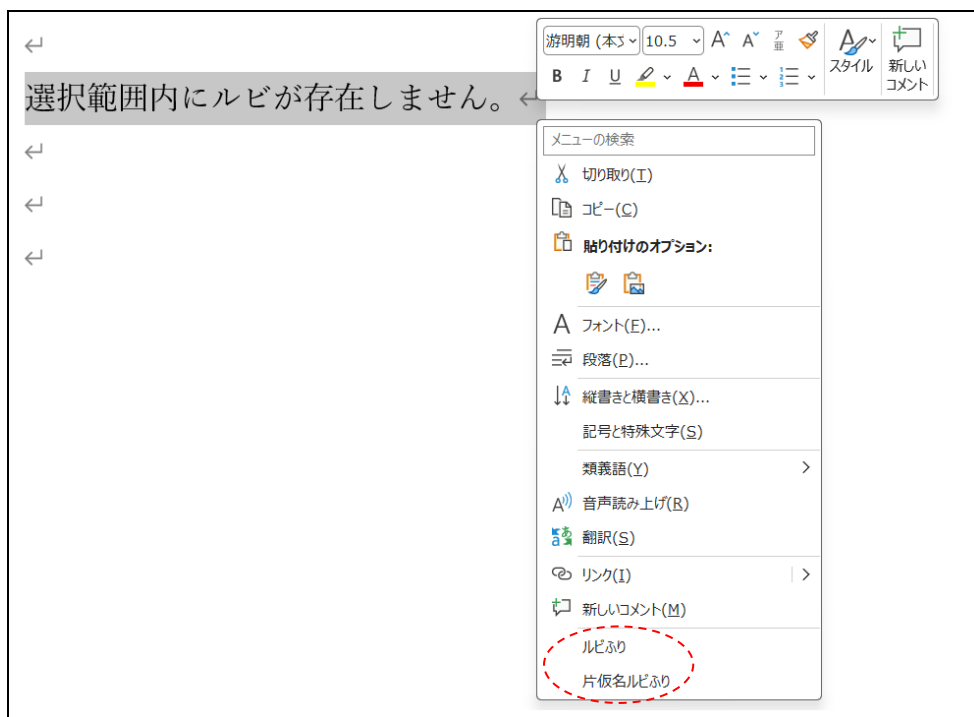


図 1-5 ルビ存在しない場合のショートカットメニュー

選択範囲内にルビが存在する場合

[ルビ削除]コマンドが表示されます（図 1-6）。

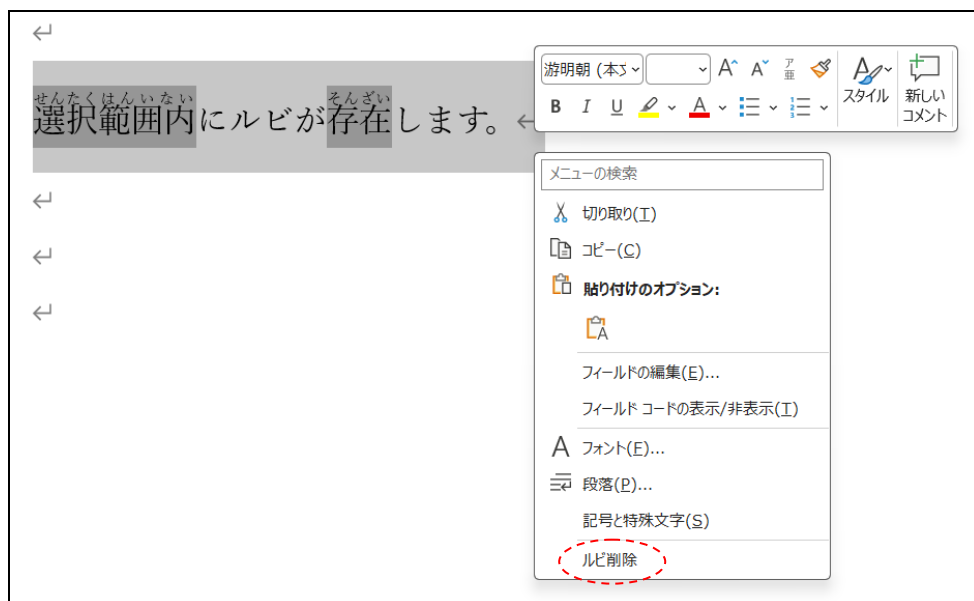


図 1-6 ルビが存在する場合のショートカットメニュー

1.3. ショートカットキーからの操作

特に使用頻度の高い「ルビふり」と「ルビ削除」の各コマンドには、専用のショートカットキーが割り当てられています。キーボード操作のみで素早く実行することが可能です。

[ルビふり]コマンド : Ctrl + Shift + R

【重要】 ルビ振り処理の中断について

実行中のルビ振り処理を中断するために再度コマンドを呼び出す場合は、ショートカットキーではなく、[自動ルビ振り]タブ内の[ルビふり]アイコンを直接クリックしてください。処理負荷の状況により、システムがショートカットキー入力を正しく認識できない場合があります。

[ルビ削除]コマンド : Ctrl + Shift + X

2. ユーザー設定

本アプリケーションの動作に関するユーザー固有の設定は、[ユーザー設定]ダイアログで行います。インストール直後は、すべての項目が初期状態で設定されています（図 2-1）。

図 2-1 [ユーザー設定]ダイアログ

① [配置]：

ルビの水平方向の配置方法を、「中央揃え」「均等割付け 1」「均等割付け 2」「左揃え」「右揃え」から選択します。この設定は Word 標準のルビ機能における「配置」の仕様に準じます（図 2-2）。初期状態は「均等割付け 2」に設定されています。

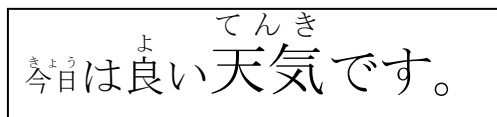


図 2-2 配置の種類

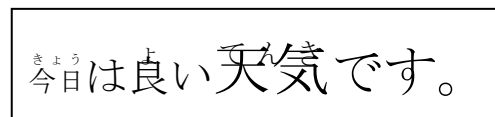
② [オフセット]：

本文とルビの垂直方向の間隔を、0 以上の整数（単位：ポイント）で設定します。初期状態は 0 に設定されています。

オフセット 0 は本文とルビの間隔が 0 ポイントであるという意味の他に重要な意味があります。本文の文字サイズがすべて同一でない場合、オフセット 0 であればルビ振り対象文字の文字サイズから計算して適正な位置にルビは配置されます。オフセットが 0 以外の場合、本文の書式スタイルの文字サイズから計算した位置にルビは配置されます（図 2-3）。



オフセット 0 ポイントの場合



オフセット 0 ポイント以外の場合

図 2-3 オフセットの自動計算

③ [フォント]：

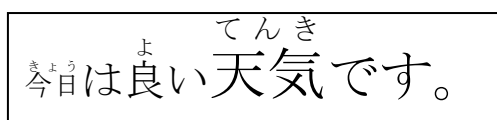
ルビに使用する書体（フォント）を選択します。「親のフォント」を選択すると、本文と同じ書体がルビにも自動的に適用されます。初期状態は「親のフォント」に設定されています。

④ [サイズ]：

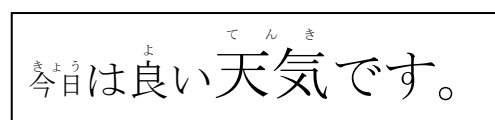
ルビの文字サイズを選択します。

初期状態は 0 で、ルビ振り対象文字の文字サイズの 1/2 になるように自動計算されます。

ルビ振り対象文字の文字サイズに依存せず、常に同じサイズのルビを振りたいときは 0 以外のサイズを選択してください（図 2-4）。



サイズが 0 ポイントの場合



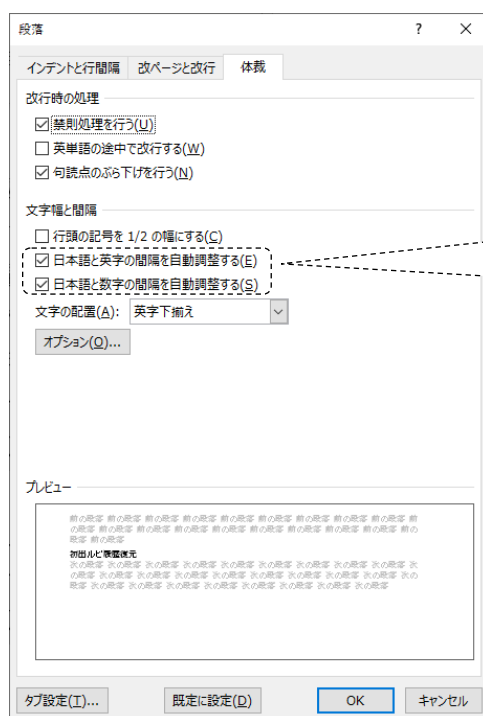
サイズが 0 ポイント以外の場合

図 2-4 サイズの自動計算

⑤ [ルビ文字サイズ補正]：

ルビ文字サイズ補正機能（ルビを振る前のレイアウトを可能な限り維持するため、動的にルビの文字サイズを決定する）を有効にする場合にチェックします。ただし、④[サイズ]が 0 ポイントであることが前提で、0 ポイント以外の場合はチェックされていても機能しません。

また、文章内のルビ振り対象の段落について、複数の属性の設定値によってはルビ振り前後でレイアウトが異なる場合があります（図 2-5）。



【日本語と英字の間隔を自動調整する】、
【日本語と数字の間隔を自動調整する】の両チェックボックスがチェックされていると、ルビ振り前後でレイアウトが異なる場合があります。

図 2-5 [段落]ダイアログとルビ振り前後のレイアウトに関する属性

初期状態はチェックされていない状態で、本機能は無効となりルビの文字サイズはルビ振り対象文字の文字サイズの 1/2 となります（図 2-6）。

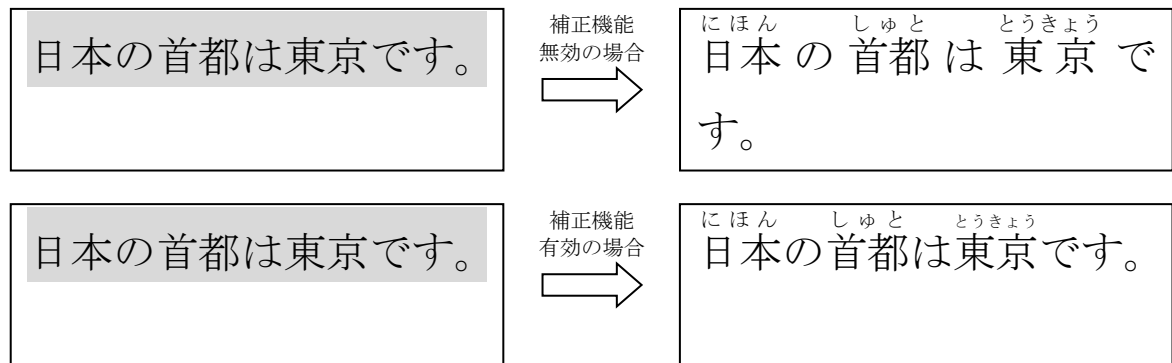


図 2-6 ルビ文字サイズ補正機能の例

⑥ [ルビ振りタイプ]：

ルビ振りのタイプを次の 8 種類の中から選択します。

「すべての漢字にルビを振る」 ※初期状態として設定されています。

「小学 1 年で習わない漢字にルビを振る」 ※1

「小学 2 年で習わない漢字にルビを振る」 ※1

「小学 3 年で習わない漢字にルビを振る」 ※1

「小学 4 年で習わない漢字にルビを振る」 ※1

「小学 5 年で習わない漢字にルビを振る」 ※1

「小学 6 年で習わない漢字にルビを振る」 ※1

「常用漢字以外の漢字にルビを振る」

※1. 文部科学省によって 2020 年に施行された小学校学習指導要領の「学年別漢字配当表」に従って未習漢字にルビを振ります。

⑦ [振り仮名]：

[ルビふり]コマンドをクリックしたときに有効な設定値で、振り仮名（以下、ルビ）の振り方を次の 3 種類の中から選択します。

ショートカットメニューの[片仮名ルビふり]コマンドをクリックしたとき、本設定値の内容に関係なくカタカナでルビを振ります。

「標準」（初期状態として設定されています。）：

変換辞書のルビの設定に従い、ひらがな（またはカタカナ）に変換することなくそのまま振ります。ただし、変換辞書に未登録な単語はひらがなで振ります。

「ひらがな」：ルビをひらがなに変換して振ります。

「カタカナ」：ルビをカタカナに変換して振ります。

⑧ [初出ルビ振り]：

初出ルビ機能（同一単語が複数回出現する場合、最初に出現した単語にルビを振る）を有効にする場合にチェックします。

初期状態はチェックされていない状態で、すべての単語にルビが振られます（総ルビ）。

⑨ [モノルビ]：

モノルビでルビを振る場合にチェックします。初期状態はチェックされていない状態で、グループルビで振られます。

グループルビとモノルビについて

グループルビは単語に対してルビを配置します。モノルビは単語を構成する漢字に対してルビを振ります（図 2-7）。

グループルビの場合、漢字の読み仮名がその漢字に対して振ることはできませんが、変換辞書を使用しないため処理は軽くなります。

モノルビの場合、漢字の読み仮名はその漢字に対して振ることができますが、変換辞書を使用してグループルビからモノルビに変換するため処理は多少重くなります。

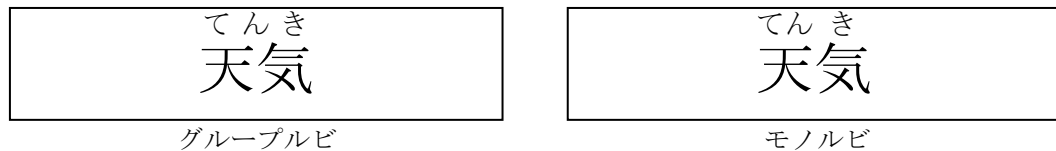


図 2-7 グループルビとモノルビ

⑩ [変換辞書登録] :

ルビ振り時、変換辞書に未登録な単語を検出したとき、ルビ振り実行中に変換辞書登録を行うことが可能です。

詳細は「9. ルビ振り時の変換辞書登録」で説明します。

初期状態はチェックされていない状態で、ルビ振り実行中の変換辞書登録は行いません。

⑪ [変換辞書保存フォルダ] :

変換辞書を保存するフォルダのフルパスを設定します。初期状態はユーザーのドキュメントフォルダが設定されます。

⑫ [フォルダ選択ダイアログ表示] :

クリックすると、変換辞書保存フォルダを設定するためのフォルダ選択ダイアログが表示されます。

⑬ [構文解析拡張機能] :

Word の単語検出は必ずしも正確とは限りません。たとえば「平昌」(ぴょんちゃん) という漢字 2 文字から構成される単語は、「平」と「昌」の 2 つの単語から構成されるように検出されます (Word 365 の場合)。本アプリケーションはこのような単語の文脈を解析して補正する機能です。ただし本機能が有効でも必ず正確に補正できるとは限りません。

初期状態はチェックされた状態で、本機能が有効となります。

⑭ [エラー時にメッセージダイアログを表示しない] :

チェックした場合、ルビ振り実行中にエラーが発生してもメッセージダイアログを表示せず、ルビ振り終了後にメッセージダイアログを表示します。チェックしない場合、ルビ振り実行中にエラーが発生したとき、ルビ振りを一旦停止してメッセージダイアログを表示します。

初期状態はチェックされた状態です。

⑮ [ルビ色変更後の文字の色] :

[ルビ色変更] コマンド実行後のルビの文字の色を「白」、「赤」、「青」、「緑」、「黄」から選択します。初期状態は、ルビが非表示になることを考慮し「白」に選択されています。Word 文書の読み上げアドイン「WordTalker」などルビ優先の読み上げソフトを使用して正しく読み上げたいがルビは表示させたくない。このような場面などでご使用ください。

⑩ [ヒットした単語の背景色] :

[一括ルビふり]、[一括ルビ検索]、[一括ルビ置換]、[一括ルビ削除]の各コマンド実行後の該当単語に背景色を設定します。背景色は「なし」、「灰色」、「赤」、「青」、「緑」、「黄」から選択します。初期状態は「青」に選択されています。

⑪ [警告時の文字の背景色] :

[一括ルビふり]、[一括ルビ検索]、[一括ルビ置換]、[一括ルビ削除]の各コマンド実行後、確認が必要な個所に背景色を設定します。背景色は「なし」、「灰色」、「赤」、「青」、「緑」、「黄」から選択します。初期状態は「黄」に選択されています。

[ヒットした単語の背景色]と[警告時の文字の背景色]は同色に設定できません。

⑫ [既定に戻す] : すべての設定項目が既定の値（インストール時の内容）に設定されます。

⑬ [設定] : クリックすると設定が有効になり、ダイアログは閉じます。

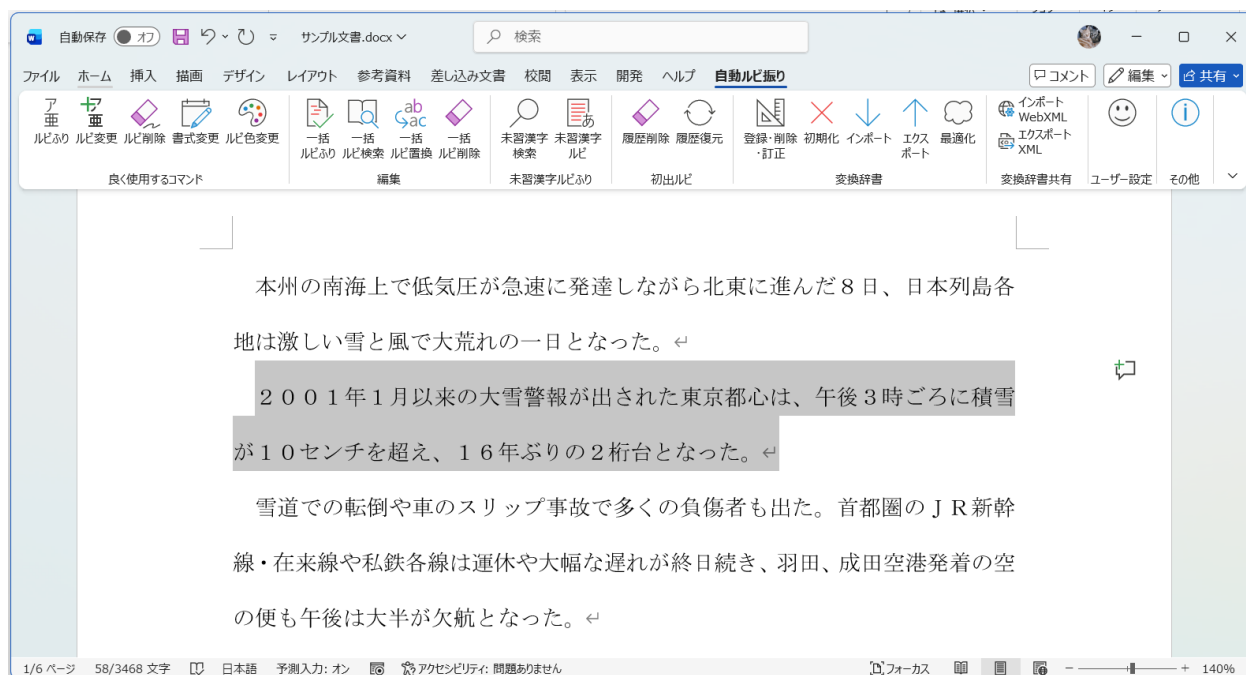
⑭ [キャンセル] : クリックすると設定が無効になり、ダイアログは閉じます。

3.ルビ振り

ルビ振りの操作は、ルビ振り範囲を選択する場合、ルビ振り範囲を選択しない場合、の2通りの操作方法があります。それぞれの操作について説明します。後に説明する「グループルビ振り」「モノルビ振り」「総ルビ振り」「未習漢字簡易ルビ振り」「初出ルビ振り」についても、操作はすべて同じです。[ユーザー設定]ダイアログの設定内容で動作が変わります。

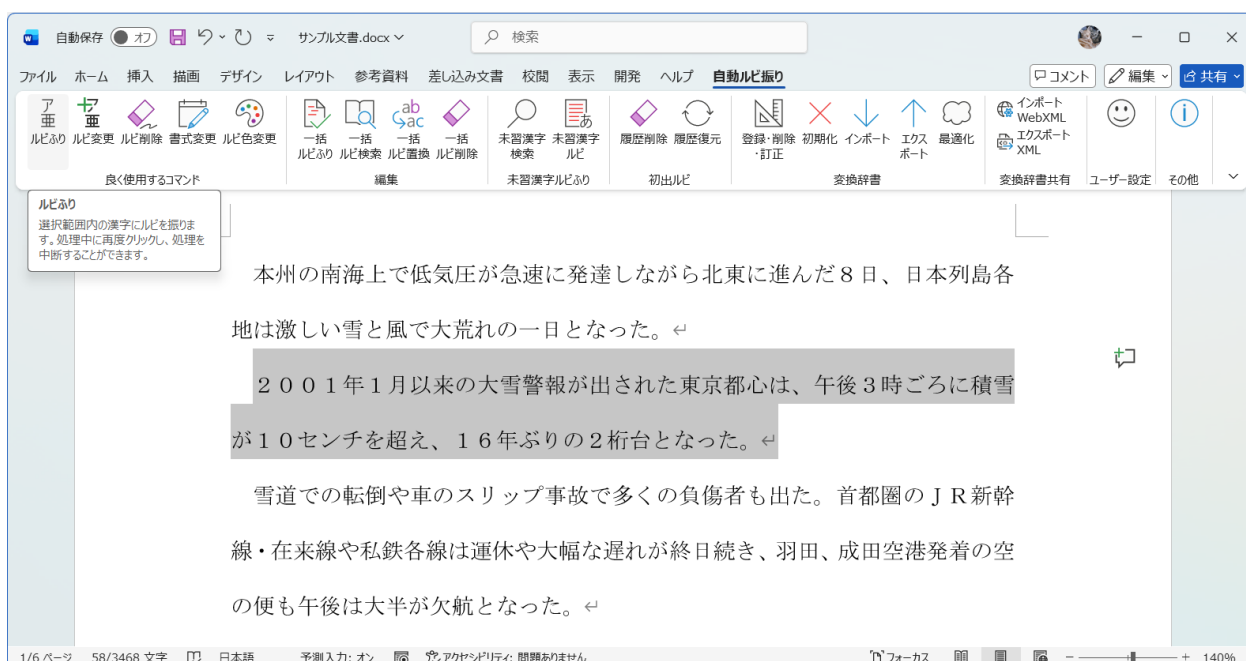
ルビ振り範囲を選択する場合

(1) ルビ振り範囲を選択します。

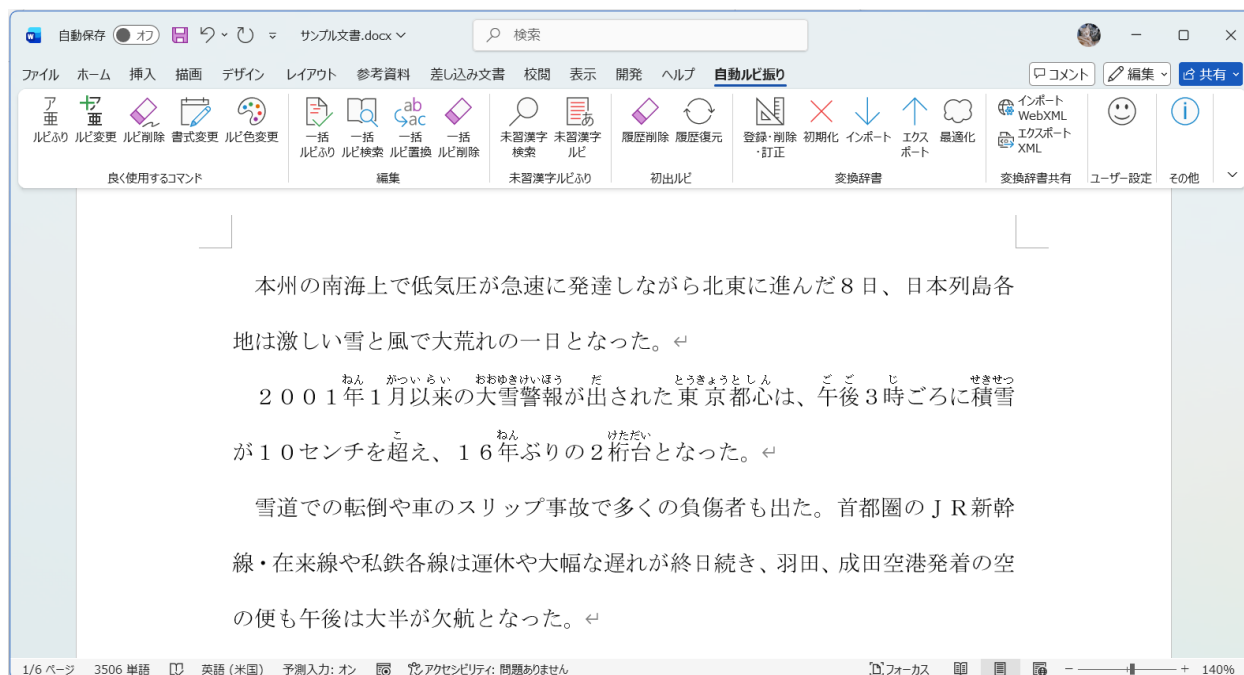


(2) [ルビ振り]コマンドをクリックします。

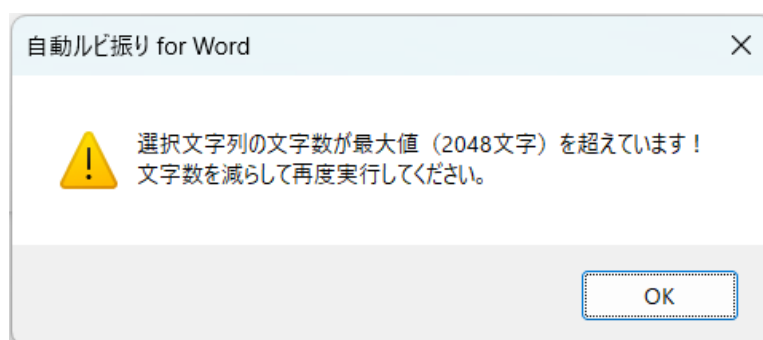
カタカナでルビを振る場合、ショートカットメニューの[片仮名ルビ振り]コマンドをクリックしてください。



=> 選択範囲内の単語にルビが振られます。

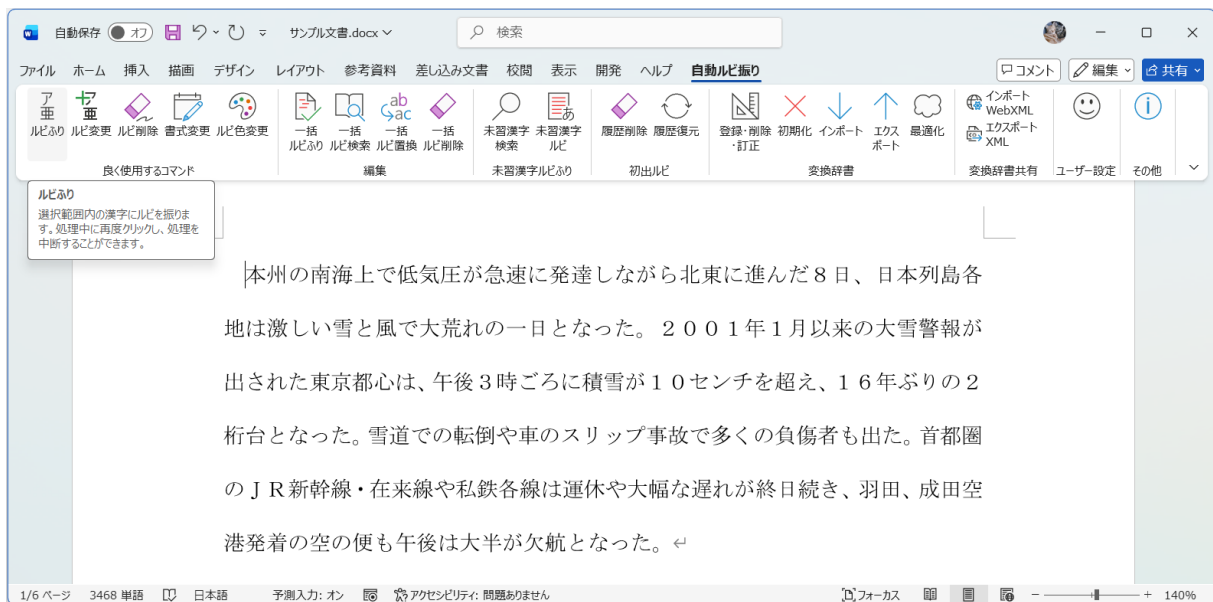


選択文字数は最大 2048 文字となっています。制限を超えた場合、エラーメッセージが表示されるので、選択範囲を制限内にして再度実行してください。



(1) ルビを振りたい段落にカーソルを指定します。

カタカナでルビを振る場合、ショートカットメニューの[片仮名ルビふり]コマンドをクリックしてください。



自動ルビ振り for Word

文字列が選択されていません。
段落単位にルビを振りますがいいですか？

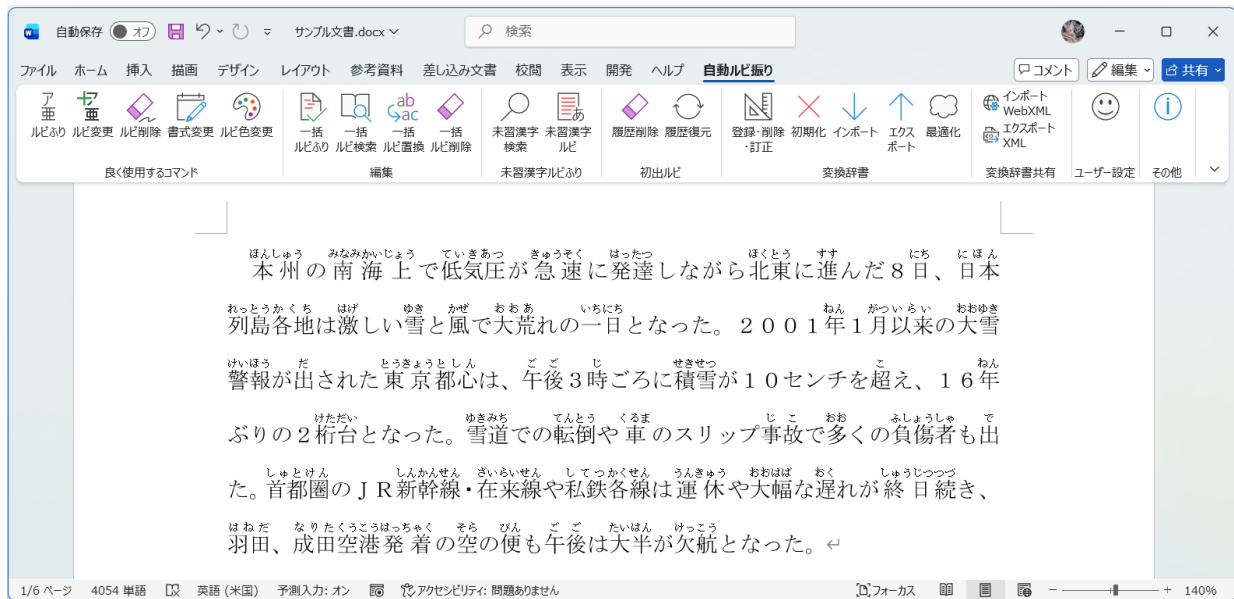
はい(Y)

いいえ(N)

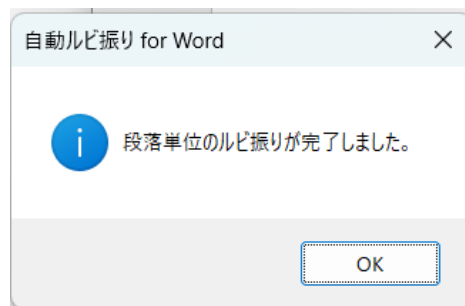
(3) [はい]ボタンをクリックします。

[いいえ]ボタンをクリックした場合、処理は中断されます。

⇒ 指定した段落以降すべての段落が選択されたと見なし、段落単位にルビが振られます。



⇒ 処理が完了した場合、終了メッセージが表示されます。



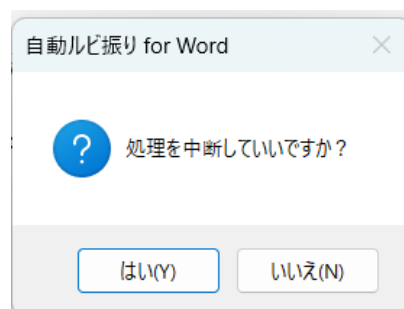
段落内の文字数は最大 2048 文字となっています。制限を超えた場合、エラーメッセージ（前述）が表示され、エラーとなった段落のルビ振りはスキップされます。その他のエラーについても、エラーとなった段落のルビ振りはスキップされます。

長い文章に対してルビ振りを実行した場合、処理が長時間に及ぶことも考えられます。途中で処理を中断したいときの操作を説明します。

(4) [ルビ振り]コマンド実行中に、再度[ルビ振り]コマンドをクリックします。

[片仮名ルビ振り]コマンド実行中の場合も[ルビ振り]コマンドをクリックしてください。

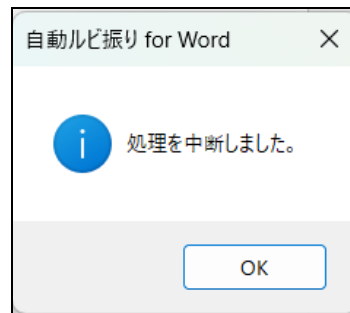
⇒ 確認メッセージが表示されます。



(5) [はい]ボタンをクリックします。

[いいえ]ボタンをクリックした場合、そのまま処理は続行されます。

⇒ 処理中断メッセージが表示され、処理は中断されます。



3.1. グループルビ振り

[ユーザー設定]ダイアログの[モノルビ]チェックボックスがチェックされていない状態でルビ振りを実行すると、グループルビでルビが振られます。

3.2. モノルビ振り

[ユーザー設定]ダイアログの[モノルビ] チェックボックスがチェックされた状態でルビ振りを実行すると、モノルビでルビが振られます。

モノルビでルビを振るためには、単語単位に変換辞書へ登録しておく必要があります。ルビ振り対象の単語が未登録の場合、グループルビでルビが振られます。変換辞書への登録方法は「10. 変換辞書登録・削除・訂正」をご参照ください。

3.3. 総ルビ振り

[ユーザー設定]ダイアログの[初出ルビ振り]チェックボックスがチェックされていない状態でルビ振りを実行すると、選択範囲のすべての単語にルビが振られます（図 3-1）。

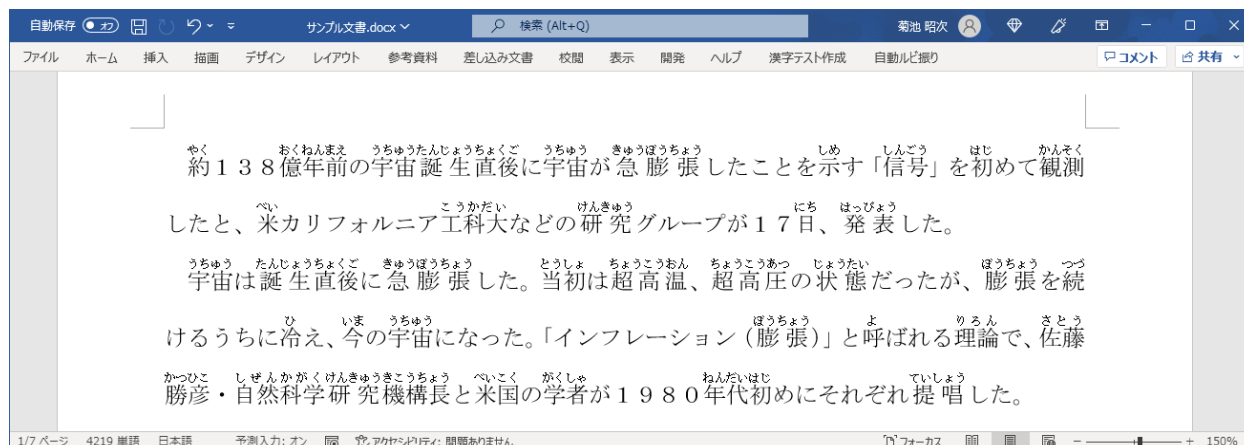


図 3-1 総ルビ振り

ルビ振りタイプが「すべての漢字にルビを振る」に設定されている場合に限りです。

3.4. 未習漢字簡易ルビ振り

ルビ振りタイプが「すべての漢字にルビを振る」以外のタイプに設定されている場合、そのタイプに該当する未習漢字にルビが振られます。ただし、2文字以上の漢字で構成される単語で未習漢字と既習漢字が混在する場合、既習漢字にもルビが振られます。確実に未習漢字にだけルビを振りたいときは、「4. 未習漢字ルビ振り」を使用してください。 図 3-2 はルビ振りタイプが「小学5年で習わない漢字にルビを振る」に設定されているときのルビ振り結果です。単語「急膨張」の3文字で「膨」だけが未習漢字ですが、単語3文字に対してルビが振られています。

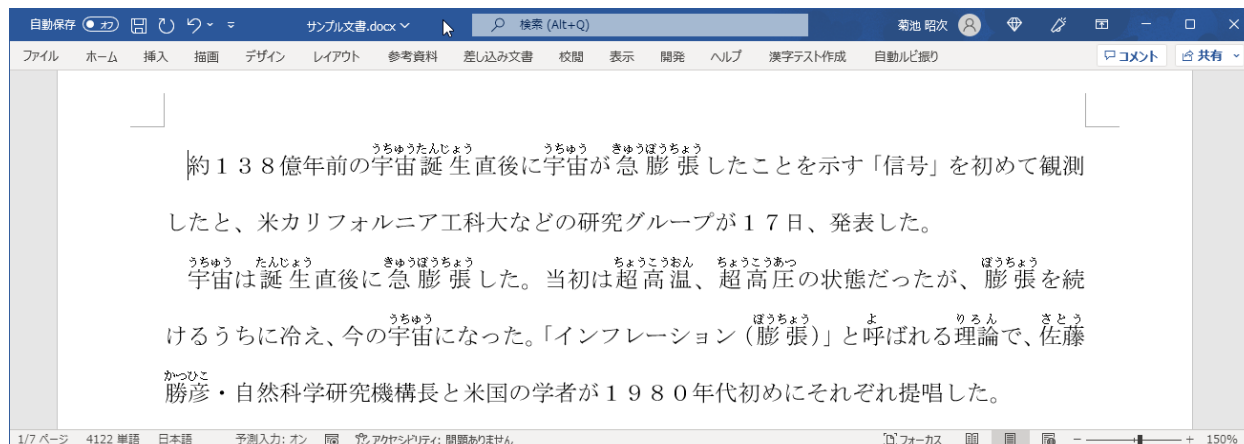
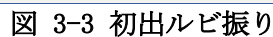


図 3-2 未習漢字簡易振り

「ユーザー設定」ダイアログの「初出ルビ振り」チェックボックスがチェックされた状態でルビ振りを実行すると、選択範囲内に同一単語が複数回出現する場合、最初に出現した単語にルビが振られます（図 3-3）。



初出ルビ履歴削除

約138億年前の宇宙誕生直後に急膨張したことを示す「信号」を初めて観測したと、米カリフォルニア工科大などの研究グループが17日、発表した。

宇宙は誕生直後に急膨張した。当初は超高温、超高压の状態だったが、膨張を続けるうちに冷え、今の宇宙になった。「インフレーション（膨張）」と呼ばれる理論で、佐藤勝彦・自然科学研究機構長と米国の学者が1980年代初めにそれぞれ提唱した。

18

初出ルビ履歴復元

図 3-3 の例で、2 行目まで初出ルビ振りし、一旦 Word 文書を保存し作業を終了したとします。改めて Word アプリケーションを起動して Word 文書を開き、3 行目以降に対して初出ルビ振りします。その結果は 図 3-5 のように 3 行目以降、前出の単語にルビが振られてしまいました。初出ルビ振り履歴の保存期間は Word アプリケーションが動作している間で、再起動すると削除されてしまいます。

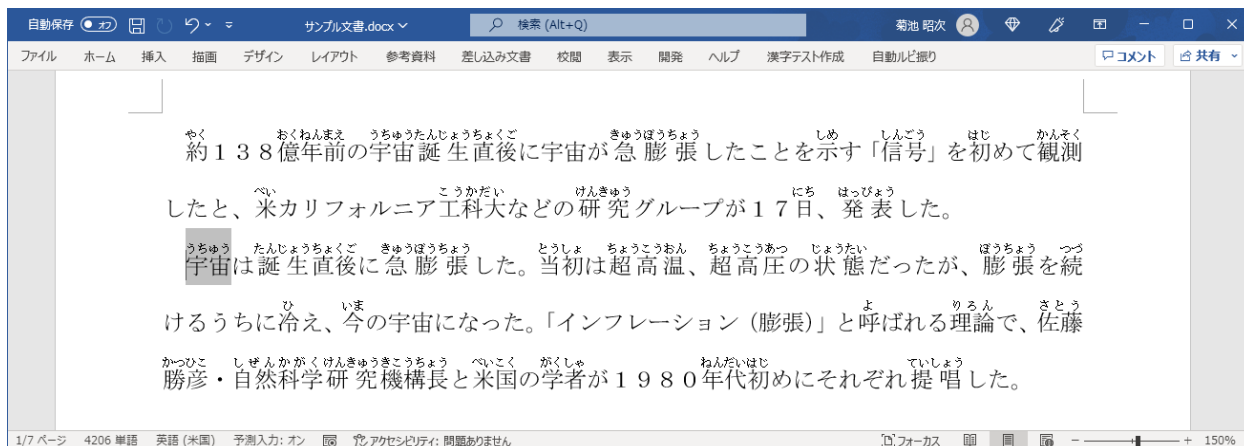


図 3-5 作業再開後の初出ルビ振り

このようなとき[初出ルビ履歴復元]コマンドを使用します。図 3-3 の例で、1 行目から 2 行目を範囲選択して[初出ルビ履歴復元]コマンドをクリックします。選択範囲内のすべてのルビは、初出ルビ履歴に追加登録されます。この作業を行うと、3 行目以降にルビ振りしても前出の単語にルビは振られません。

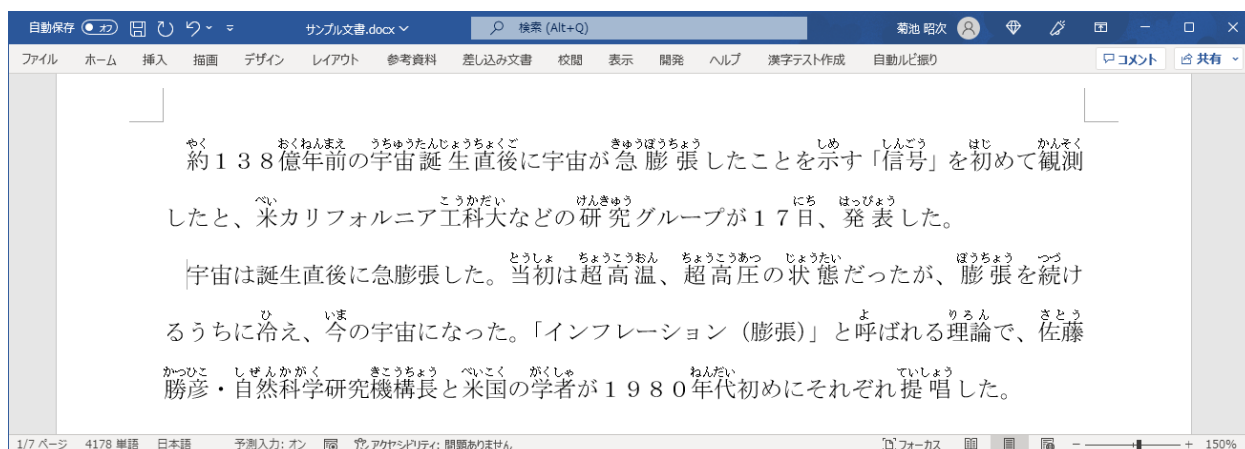


図 3-6 初出ルビ履歴復元後の初出ルビ振り

モノルビ振りと初出ルビ振りの併用について

モノルビ振りと初出ルビ振りを併用した場合、使用者の意図するルビ振りが行われない場合があります。グループルビ振りと初出ルビ振りとの併用を推奨します。

モノルビでルビを振った場合、単語を構成する漢字単位にルビを振るため、初出ルビ履歴に単語ではなく漢字が登録されます。同一単語の出現を判別するための初出ルビ履歴は、同一漢字の出現を判別するためのものになってしまいます。図 3-7 の例で、前出の漢字「本州」の「本」にルビが振られたため、「日本」の「本」にはルビが振られません。同様に「都心」の「都」にルビが振られているため、「首都圏」の「都」にルビが振られません。

ほんしゅう みなみかいじょう ていき あつ きゅうそく はったつ ほくとう すず か に れつとうかく
本州の南海上で低気圧が急速に発達しながら北東に進んだ8日、日本列島各
ち はげ ゆき かぜ おお あ いちにち ねん がつ いらい おおゆきけいほう だ
地は激しい雪と風で大荒れの日となった。2001年1月以来の大雪警報が出さ
とうきょうとしん ご ご じ せきせつ こ けただい
れた東京都心は、午後3時ごろに積雪が10センチを超え、16年ぶりの2桁台と
ゆきみち てんとう くるま じ こ おお ふしゅうしゃ で しゅ けん
なった。雪道での転倒や車のスリップ事故で多くの負傷者も出た。首都圏のJR
しんかんせん ざいらいせん してつかくせん うんきゅう おおはば おく しゅうじつづ はねだ なり た くのうはつちやく
新幹線・在来線や私鉄各線は運休や大幅な遅れが終日続き、羽田、成田空港発着
の空の便も 午後は大半が欠航となった。

図 3-7 モノルビ振りと初出ルビ振りの併用例

グループルビ振りと初出ルビ振りの併用の例が図 3-8 です。単語単位に初出ルビ履歴に登録されるため、「日本」の「本」、「首都圏」の「都」について、単語が前出していないのでルビが振られています。この例では「午後」のみ前出しているためルビが振られていません。

ほんしゅう みなみかいじょう ていき あつ きゅうそく はったつ ほくとう すず か にほん れつとう
本州の南海上で低気圧が急速に発達しながら北東に進んだ8日、日本列島
かくち はげ ゆき かぜ おお あ ついたち ねん がつ いらい おおゆきけいほう だ
各地は激しい雪と風で大荒れの日となった。2001年1月以来の大雪警報が出
とうきょうとしん ご ご じ せきせつ こ けただい
された東京都心は、午後3時ごろに積雪が10センチを超え、16年ぶりの2桁台
ゆきみち てんとう くるま じ こ おお ふしゅうしゃ で しゅとけん
となった。雪道での転倒や車のスリップ事故で多くの負傷者も出た。首都圏のJ
しんかんせん ざいらいせん してつかくせん うんきゅう おおはば おく しゅうじつづ はねだ なり た くのうはつちやく
R新幹線・在来線や私鉄各線は運休や大幅な遅れが終日続き、羽田、成田空港
はつちやく そら びん たいはん けっこう
発着の空の便も 午後は大半が欠航となった。

図 3-8 グループルビ振りと初出ルビ振りの併用例

4. 未習漢字ルビ振り

未習漢字ルビ振りは、[未習漢字検索]コマンド、[未習漢字ルビ]コマンドを使用して行います。まず[未習漢字検索]コマンドを実行し、未習漢字に黄色のマーキングを設定します。次に[未習漢字ルビ]コマンドを実行し、黄色にマーキング設定された漢字を Word の標準機能である[ルビ]ダイアログを使用して手動でルビを振ります。

[未習漢字検索]コマンド、[未習漢字ルビ]コマンドとも、ルビ振りタイプが「すべての漢字にルビを振る」以外のタイプに設定されているときに機能します。

なお未習漢字の検索は、文部科学省によって 2020 年に施行された小学校学習指導要領の「学年別漢字配当表」に従って行います。

4.1. 未習漢字検索

検索範囲を選択し、[未習漢字検索]コマンドを実行します。選択範囲内の漢字を 1 文字ずつチェックし、未習漢字に黄色のマーキングを設定します。検索範囲を選択しない場合、Word 文書全体が選択されたと見なします。

図 4-1 は、ルビ振りタイプが「小学 5 年で習わない漢字にルビを振る」に設定されているときの未習漢字検索結果です。

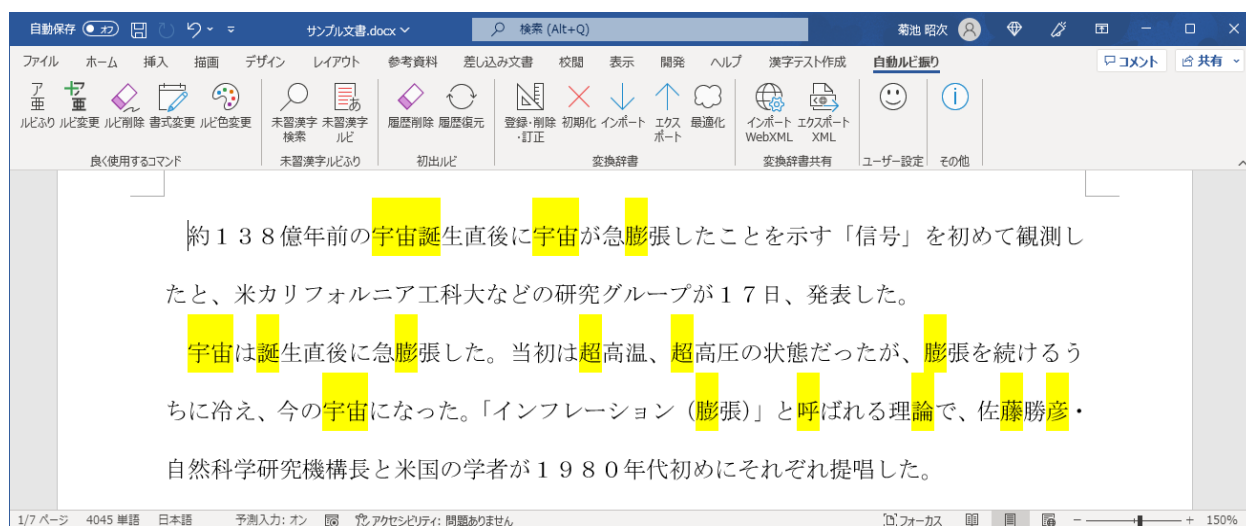


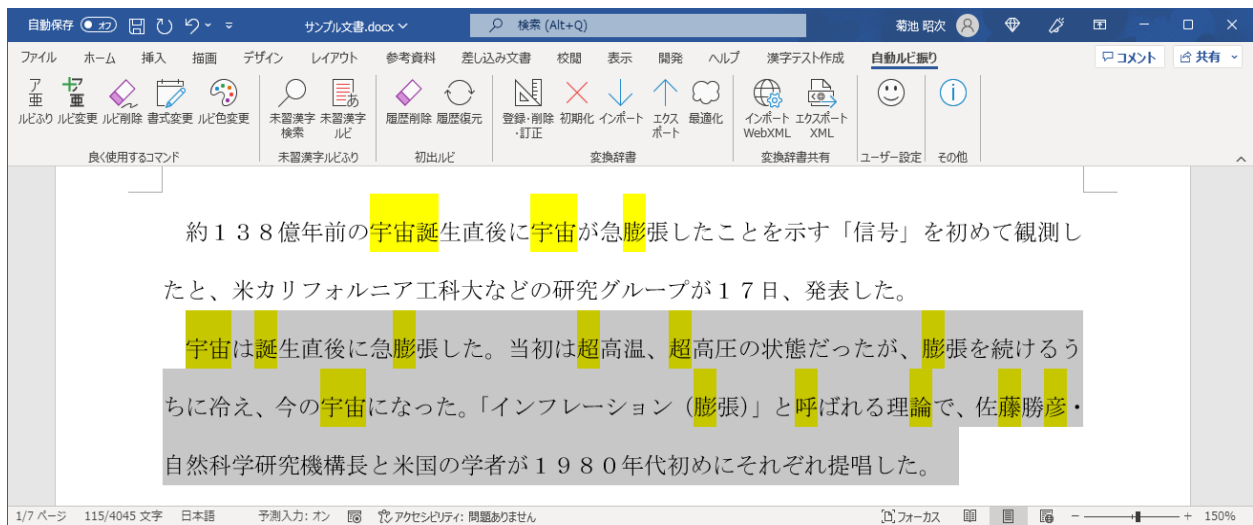
図 4-1 未習漢字検索結果

4.2. 未習漢字ルビ

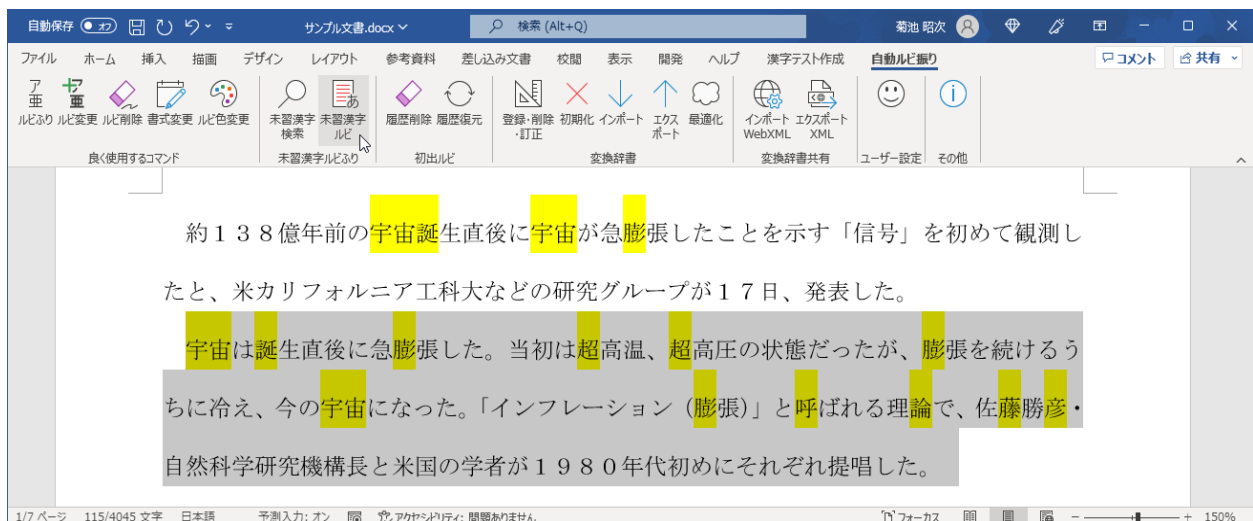
ルビ振り範囲を選択し、範囲内の黄色でマーキング設定されている文字に対してルビ振りを行います。ルビ振り範囲を選択しない場合、Word 文書全体が選択されたと見なします。別の目的(強調文字列などで、黄色でマーキングされている文字に対してもルビ振りを行いますので、ルビ振りさせたくない場合は範囲選択から外してください。また、文字単位にルビを振るのでモノルビ扱いとなります。

(1) ルビ振り範囲を選択します。

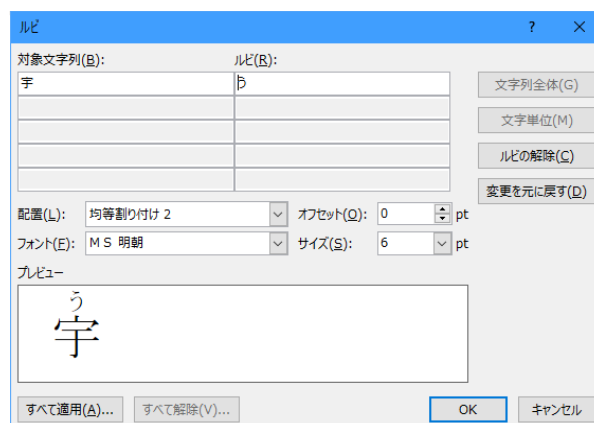
範囲を選択しない場合、文章全体が選択されたと見なします。



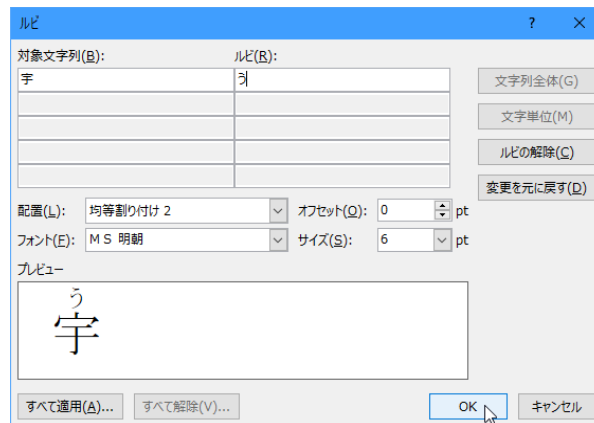
(2) [未習漢字ルビ] コマンドをクリックします。



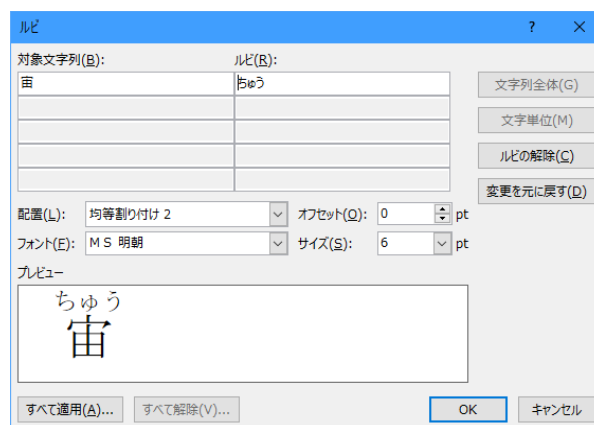
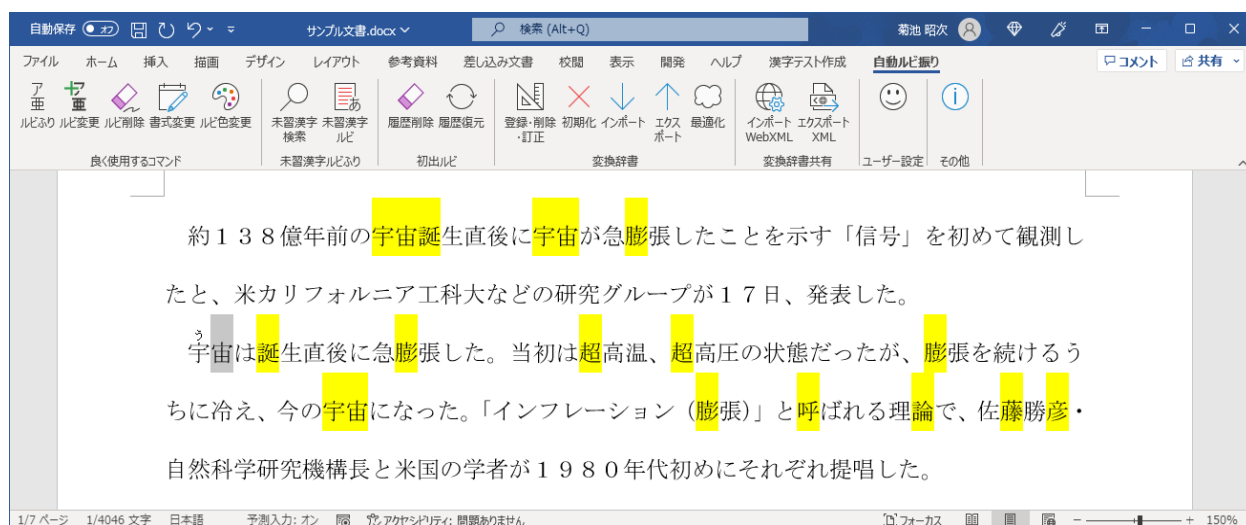
⇒ 黄色でマーキングされた未習漢字が Word 標準機能の [ルビ] ダイアログに表示されます。



(3) ルビを入力し、[OK]ボタンをクリックします。



⇒ 未習漢字にルビが振られ、次に黄色でマーキングされた未習漢字が「ルビ」ダイアログに表示されます。



(4) 以下、手順(3)の操作を選択範囲内の黄色でマーキングされたすべての未習漢字について行います。

[キャンセル]ボタンをクリックすると、その時点で処理は中断します。

5.編集

選択範囲内から特定のルビ付き単語（または単語）を検索し、該当箇所に対して以下の処理を行います。

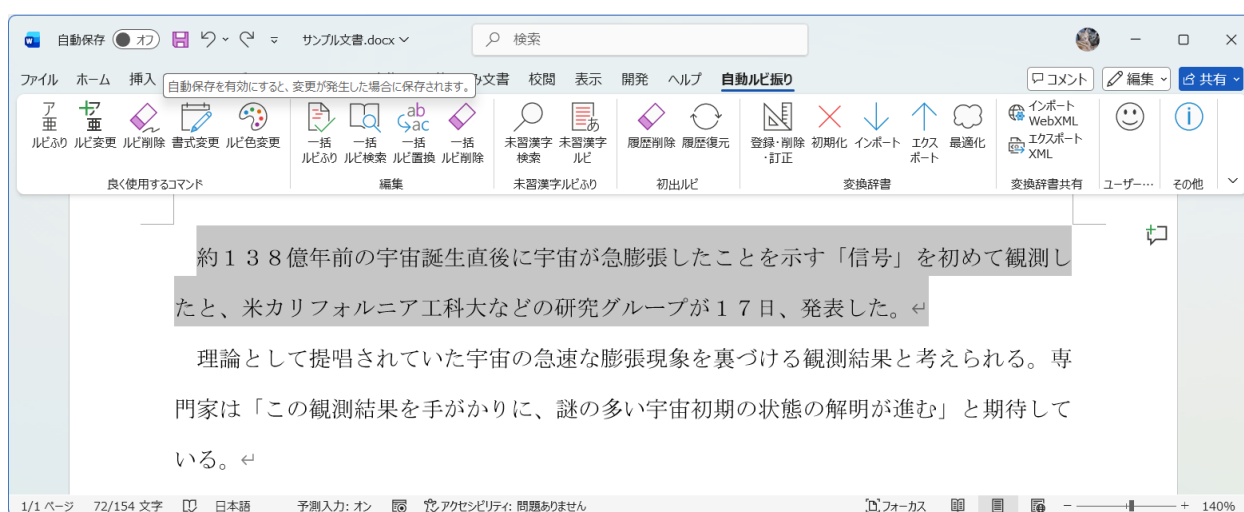
- 一括ルビ振り：該当する単語にルビを振ります。
- 一括ルビ検索：該当するルビ付き単語に背景色を設定します。
- 一括ルビ置換：該当するルビ付き単語のルビを指定したルビに置換します。
- 一括ルビ削除：該当するルビ付き単語のルビを削除します。

本機能はグルーブルビに特化したもので、モノルビには対応しておりません。

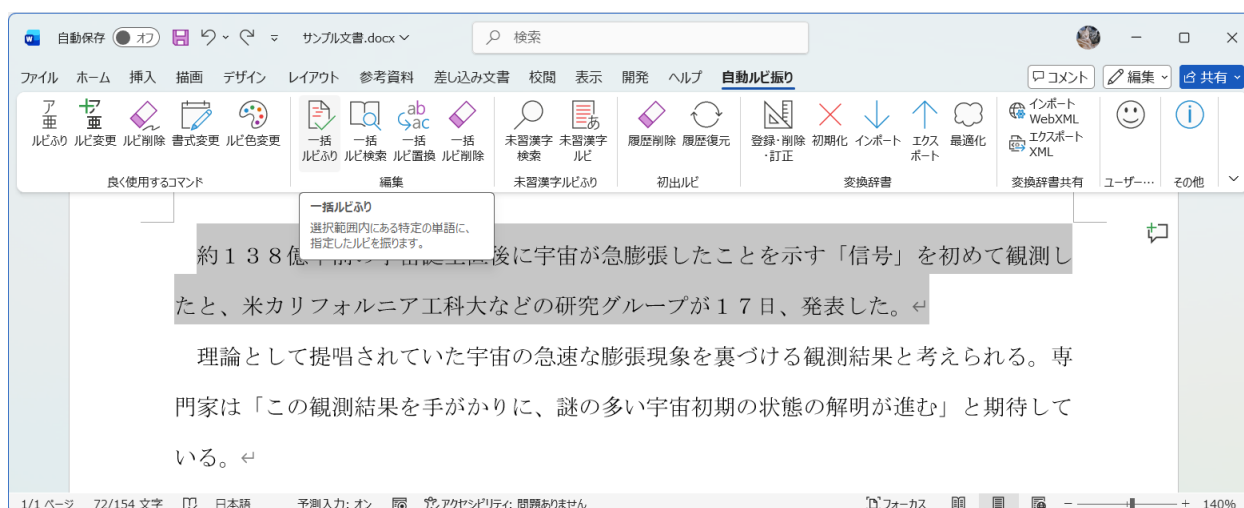
5.1. 一括ルビ振り

(1) ルビ振り範囲を選択します。

範囲を選択しない場合、文章全体が選択対象となります。



(2) [一括ルビ振り]コマンドをクリックします。



⇒ [一括ルビ振り]ダイアログが表示されます。

一括ルビ振り

検索する単語:

付けるルビ:

取り消し ルビ振り キャンセル

- (3) [検索する単語]テキストボックスに「宇宙」、[付けるルビ]テキストボックスに「うちゅう」を入力し、[ルビ振り]ボタンをクリックします。

一括ルビ振り

検索する単語:
宇宙

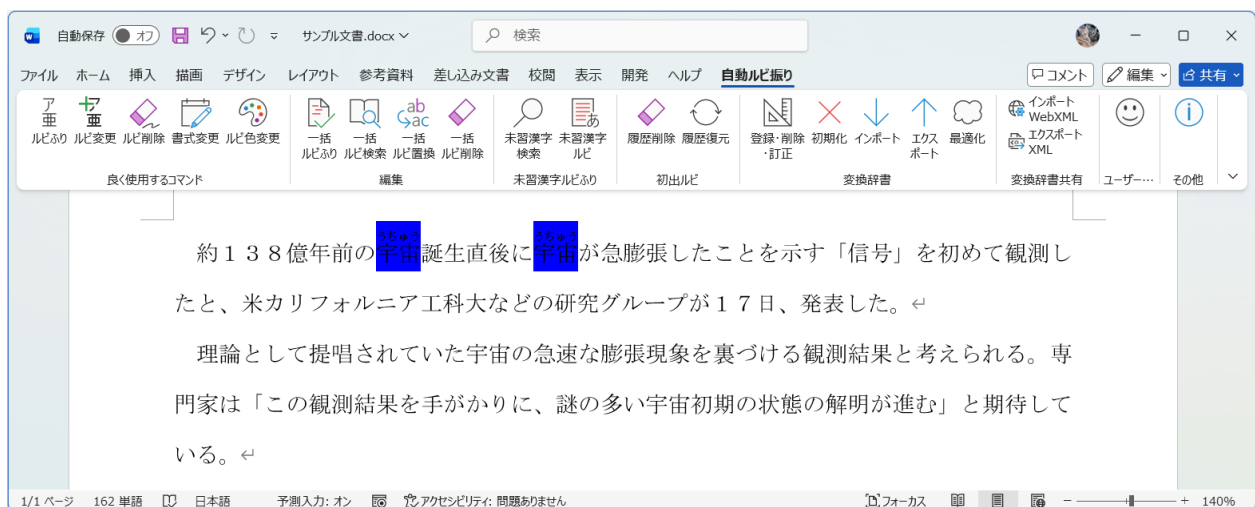
付けるルビ:
うちゅう

取り消し ルビ振り キャンセル

- ⇒ 該当する単語「宇宙」にルビ「うちゅう」が振られ、該当するルビ付き単語の背景色が[ユーザー設定]ダイアログの[ヒットした単語の背景色]コンボボックスで指定した色に設定されます。

また、処理結果はメッセージボックスで表示されます。

背景色を消すには、[ホーム]タブの[段落]グループ内にある[塗りつぶし]コマンドを使用して「色なし」を選択してください。



一括ルビ振り

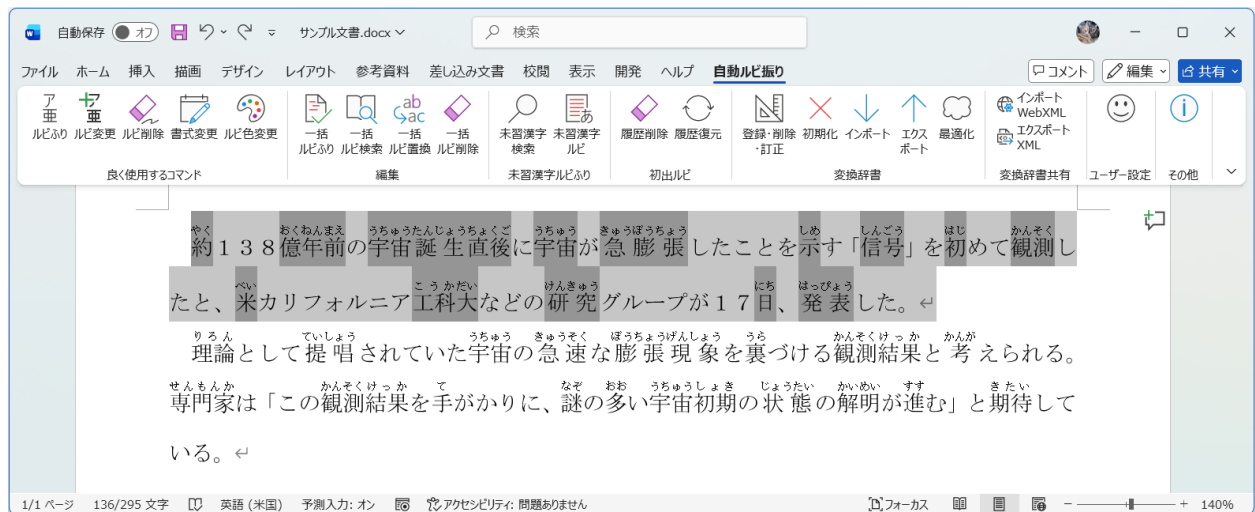
2箇所、「宇宙」にルビ「うちゅう」を振りました。

OK

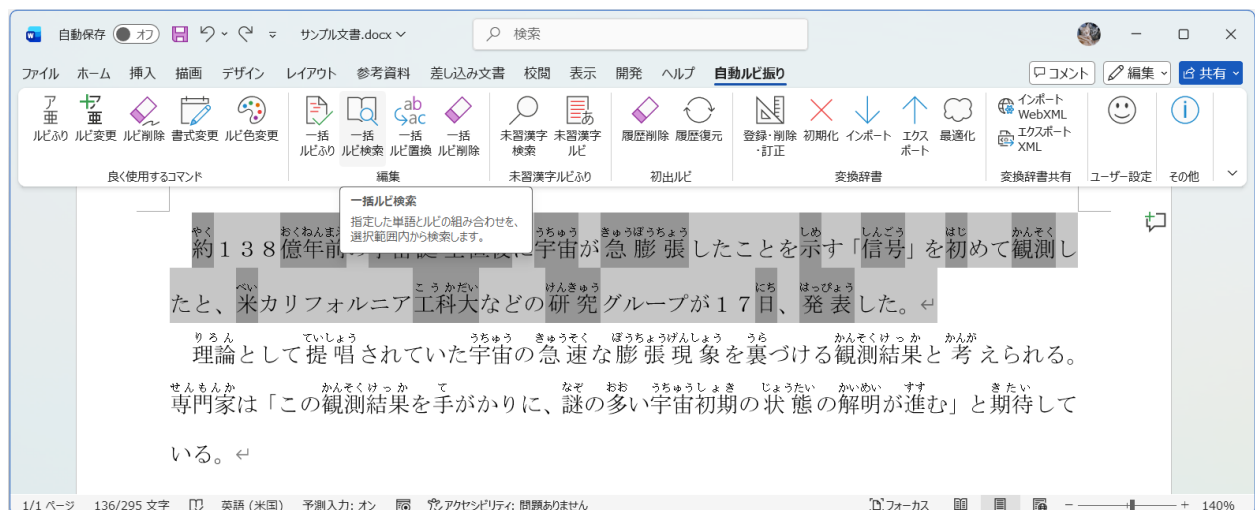
5.2. 一括ルビ検索

(1) 検索する範囲を選択します。

範囲を選択しない場合、文章全体が選択対象となります。



(2) [一括ルビ検索]コマンドをクリックします。



⇒ [一括ルビ検索]ダイアログが表示されます。

一括ルビ検索

検索する単語:

検索するルビ:

取り消し

検索

キャンセル

- (3) [検索する単語]テキストボックスに「宇宙」、[検索するルビ]テキストボックスに「うちゅう」を入力し、[検索]ボタンをクリックします。



一括ルビ検索

検索する単語:
宇宙

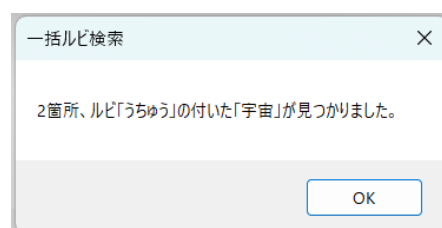
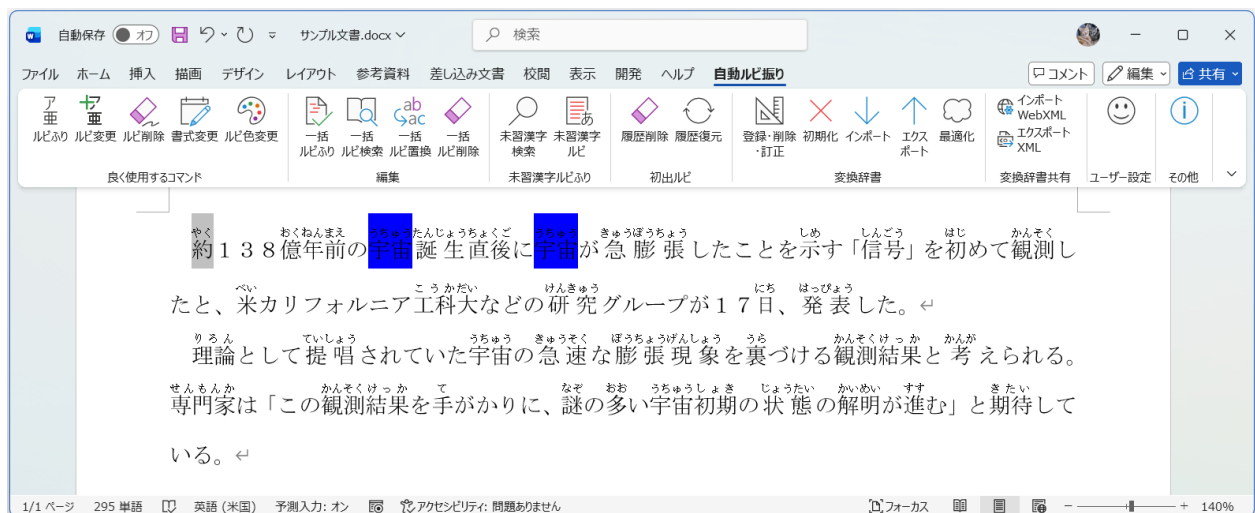
検索するルビ:
うちゅう

取り消し 検索 キャンセル

⇒ 該当するルビ付き単語の背景色が[ユーザー設定]ダイアログの[ヒットした単語の背景色]コンボボックスで指定した色に設定されます。

また、処理結果はメッセージボックスで表示されます。

背景色を消すには、[ホーム]タブの[段落]グループ内にある[塗りつぶし]コマンドを使用して「色なし」を選択してください。またはクイックアクセスツールバーの[元に戻す]コマンドをクリックしてください。



一括ルビ検索

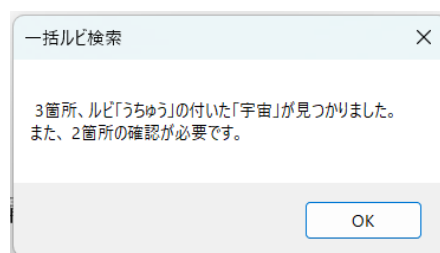
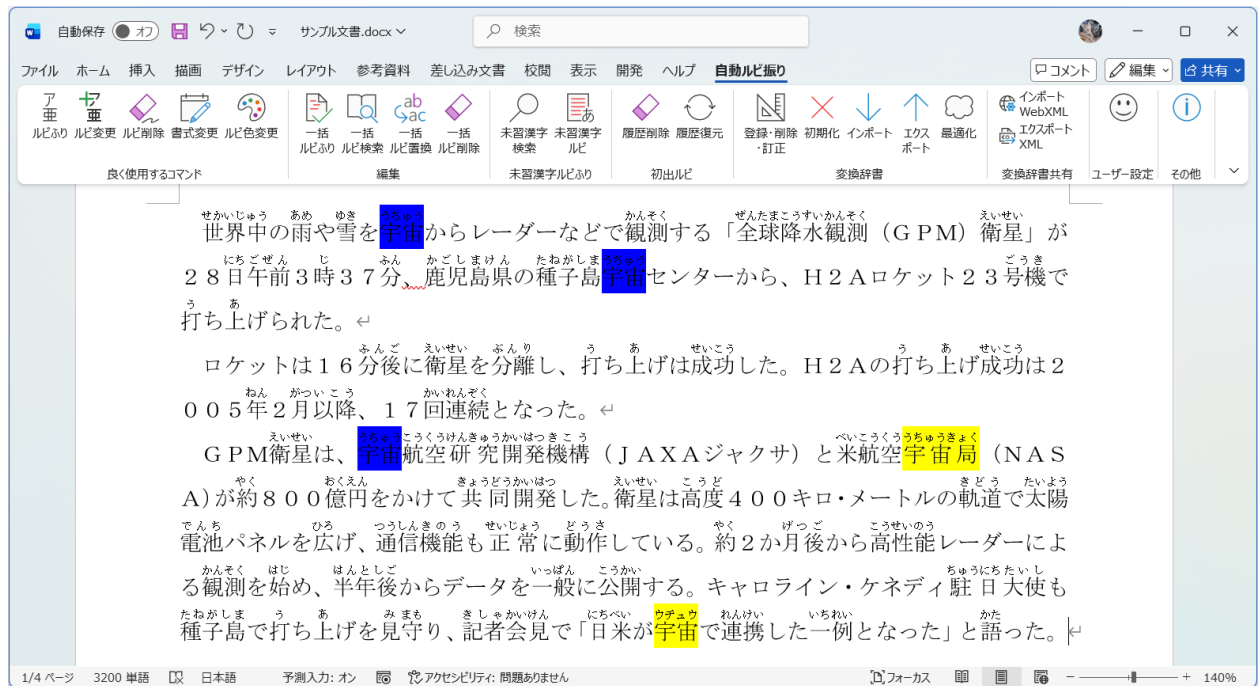
2箇所、ルビ「うちゅう」の付いた「宇宙」が見つかりました。

OK

警告メッセージについて

下図は、選択範囲内のルビ付き単語を「宇宙（うちゅう）」で検索した結果で、3箇所が検索条件にヒットし、2箇所が要確認と判定されました。要確認と判定された場合、該当するルビ付き単語の背景色が[ユーザー設定] ダイアログの[警告時の文字の背景色]コンボボックスで指定した色に設定されます。

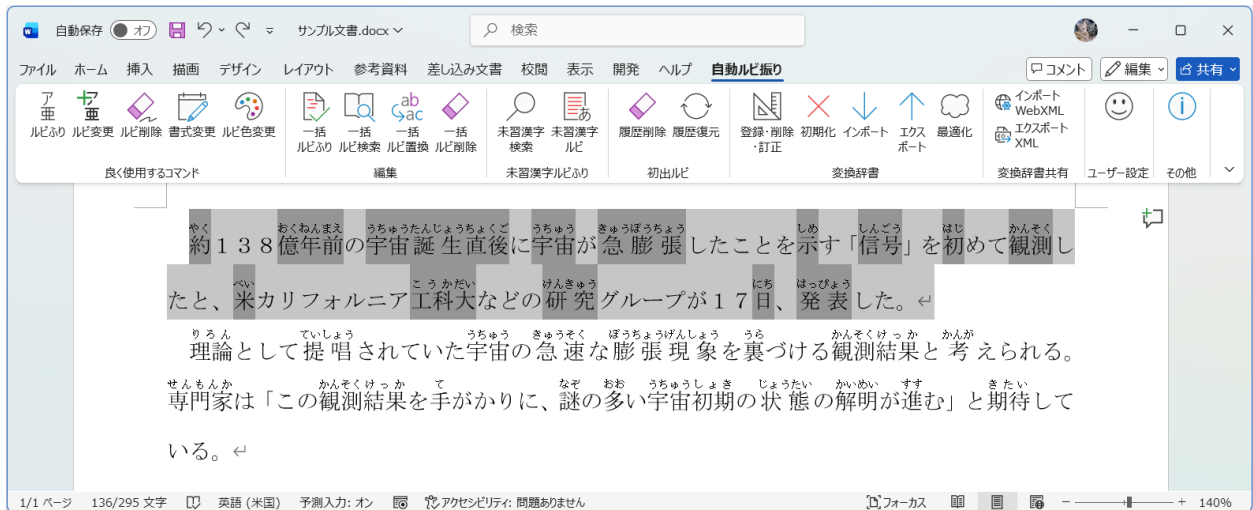
ルビ付き単語「宇宙局（うちゅうきょく）」は検索対象の単語「宇宙」ではありません。またルビ付き単語「宇宙（ウチュウ）」は検索対象の単語「宇宙」ですが、ルビが検索対象のルビ「うちゅう」ではありません。



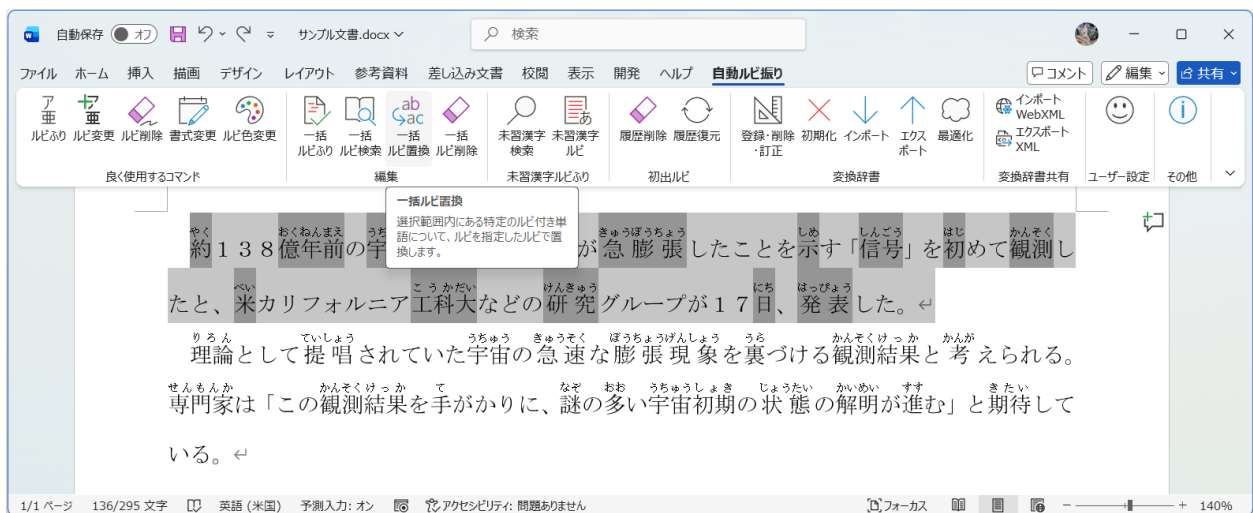
5.3. 一括ルビ置換

(1) 検索する範囲を選択します。

範囲を選択しない場合、文章全体が選択対象となります。



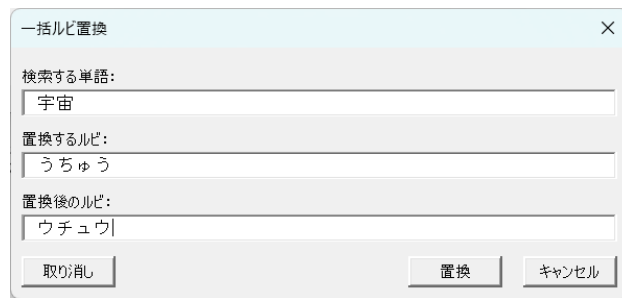
(2) [一括ルビ置換] コマンドをクリックします。



⇒ [一括ルビ置換] ダイアログが表示されます。

A screenshot of the '一括ルビ置換' (Batch Romaji Replacement) dialog box. It has a title bar with the text '一括ルビ置換' and a close button. The dialog contains three text input fields: '検索する単語:' (Search for words:), '置換するルビ:' (Replace with romaji:), and '置換後のルビ:' (Romaji after replacement:). At the bottom, there are three buttons: '取り消し' (Cancel), '置換' (Replace), and 'キャンセル' (Cancel).

- (3) [検索する単語]テキストボックスに「宇宙」、[置換するルビ]テキストボックスに「うちゅう」、[置換後のルビ]テキストボックスに「ウチュウ」を入力し、[置換]ボタンをクリックします。



一括ルビ置換

検索する単語:
宇宙

置換するルビ:
うちゅう

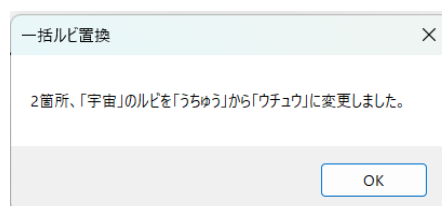
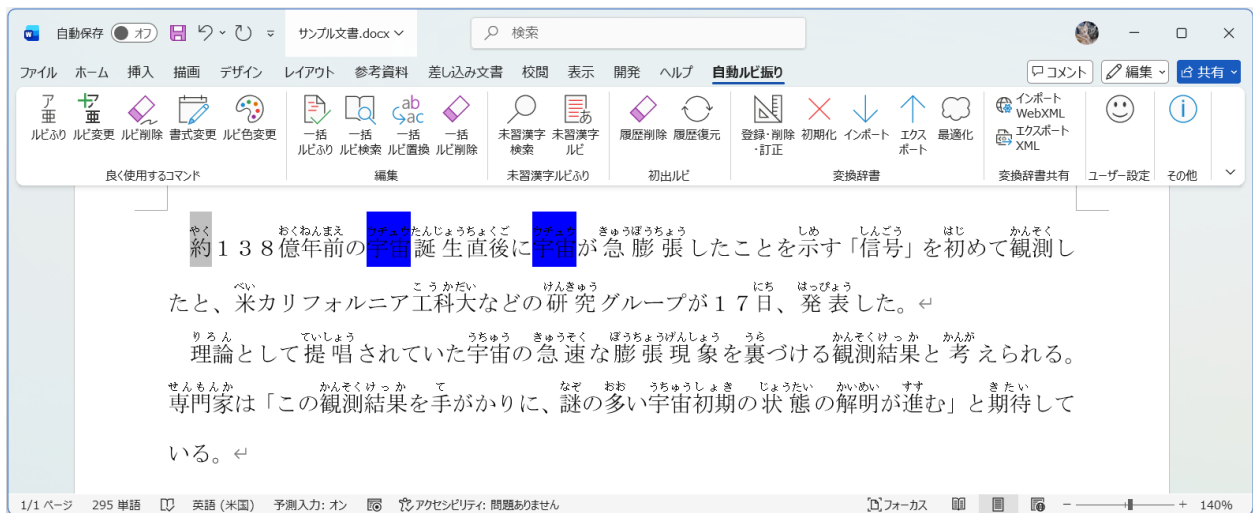
置換後のルビ:
ウチュウ

取り消し 置換 キャンセル

- ⇒ 該当する単語「宇宙」のルビ「うちゅう」は「ウチュウ」で置換され、該当するルビ付き単語の背景色が [ユーザー設定] ダイアログの [ヒットした単語の背景色] コンボボックスで指定した色に設定されます。

また、処理結果はメッセージボックスで表示されます。

背景色を消すには、[ホーム] タブの [段落] グループ内にある [塗りつぶし] コマンドを使用して「色なし」を選択してください。



一括ルビ置換

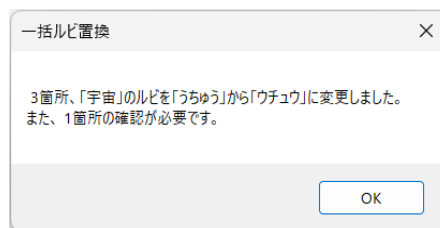
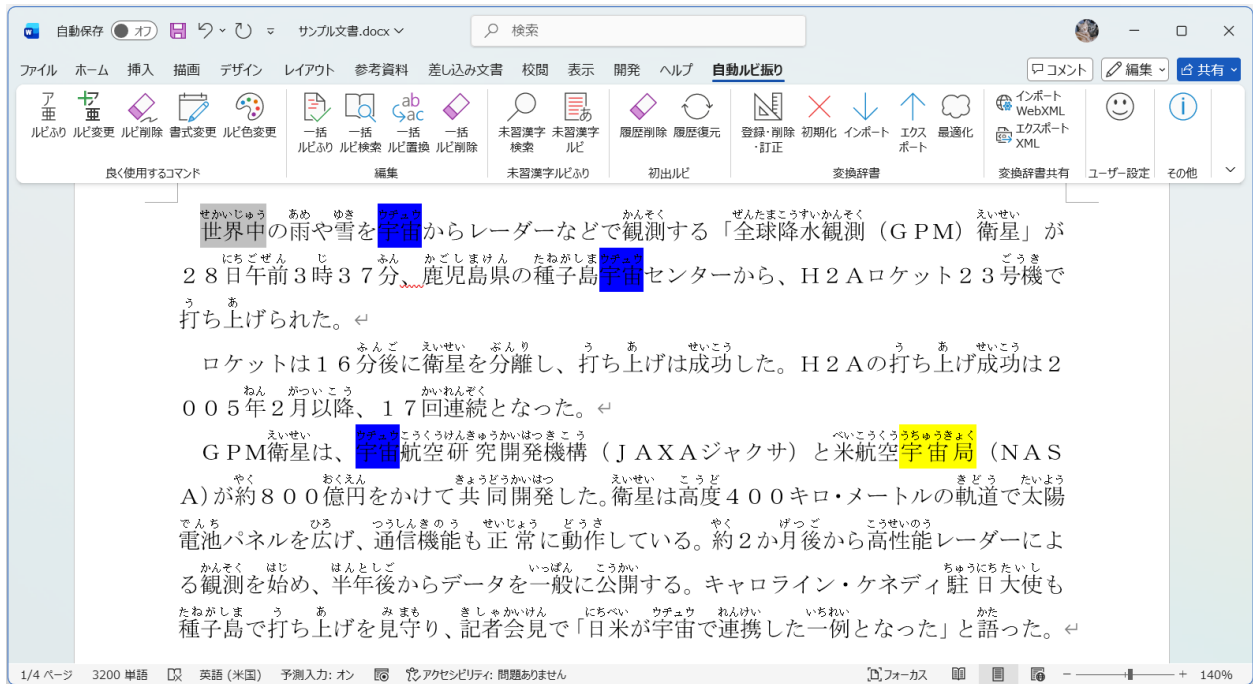
2箇所、「宇宙」のルビを「うちゅう」から「ウチュウ」に変更しました。

OK

警告メッセージについて

下図は、選択範囲内のルビ付き単語「宇宙（うちゅう）」のルビを「ウチュウ」に置換した結果で、3箇所が検索条件にヒットし、1箇所が要確認と判定されました。要確認と判定された場合、該当するルビ付き単語の背景色が「ユーザー設定」ダイアログの[警告時の文字の背景色]コンボボックスで指定した色に設定されます。

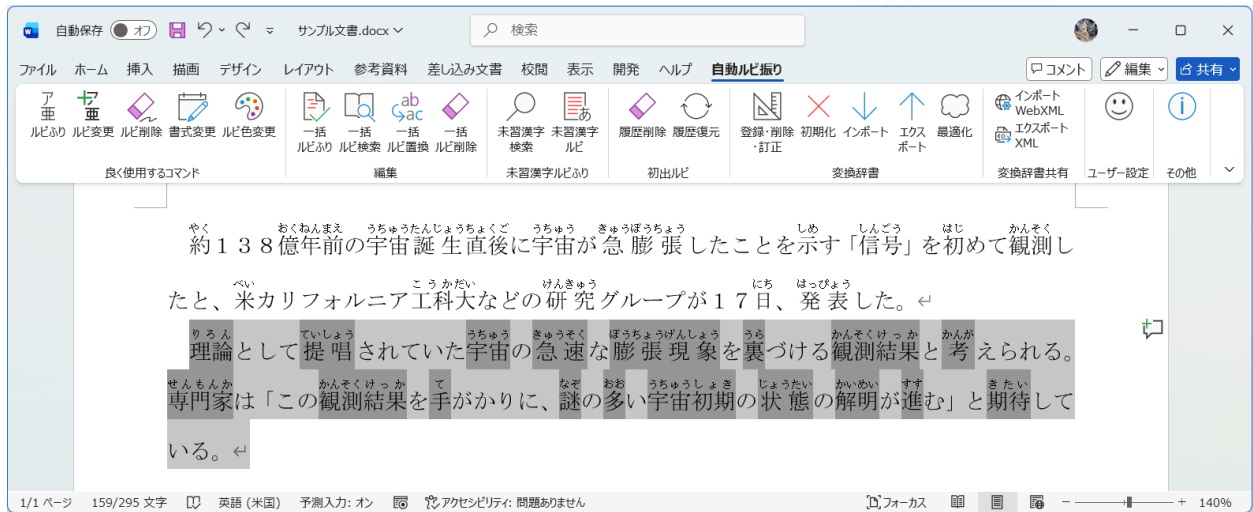
ルビ付き単語「宇宙局（うちゅうきょく）」は置換対象の単語「宇宙」ではありません。



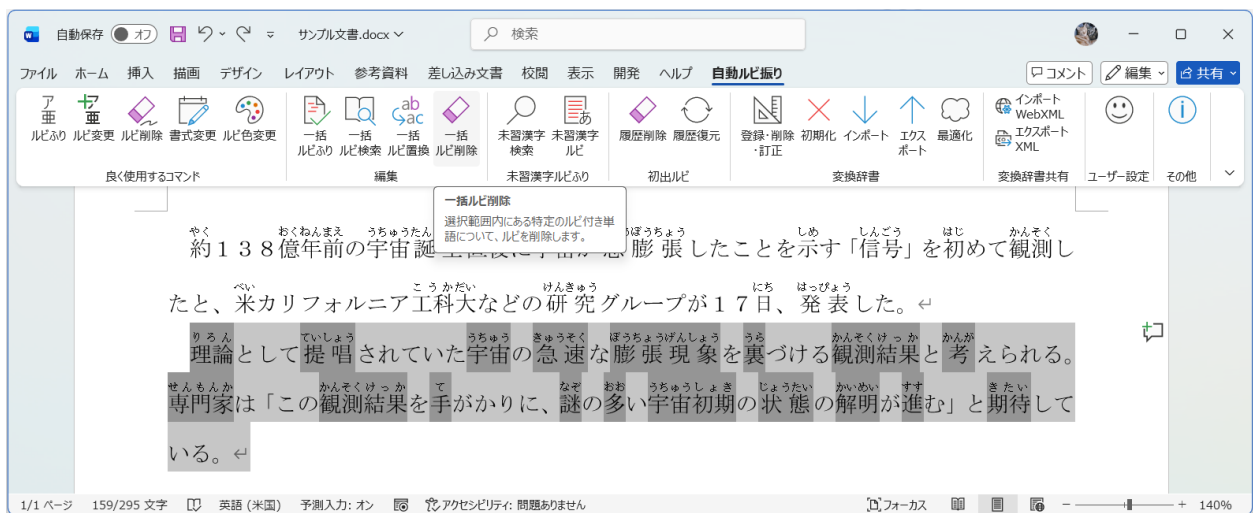
5.4. 一括ルビ削除

(1) 検索する範囲を選択します。

範囲を選択しない場合、文章全体が選択対象となります。



(2) [一括ルビ削除] コマンドをクリックします。



⇒ [一括ルビ削除] ダイアログが表示されます。

一括ルビ削除

検索する単語:

削除するルビ:

取り消し

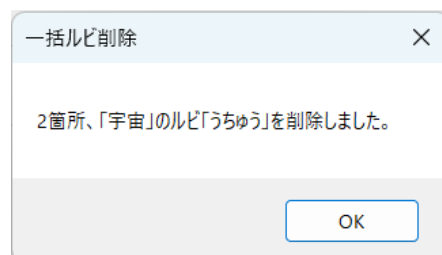
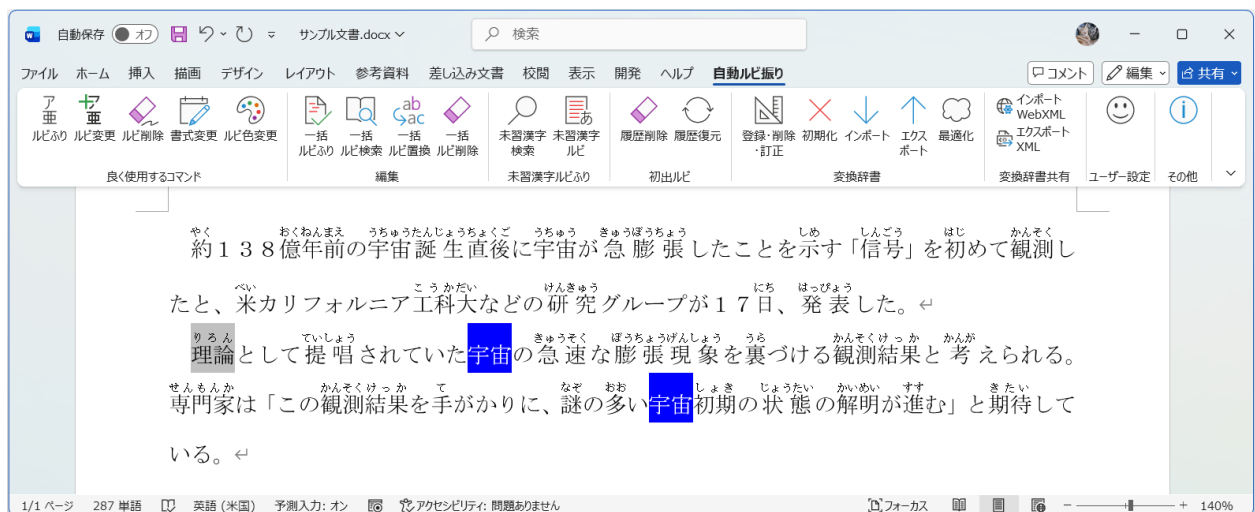
削除

キャンセル

- (3) [検索する単語]テキストボックスに「宇宙」、[削除するルビ]テキストボックスに「うちゅう」を入力し、[削除]ボタンをクリックします。



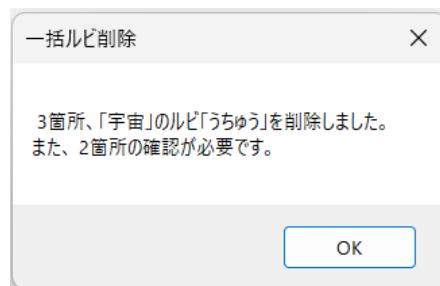
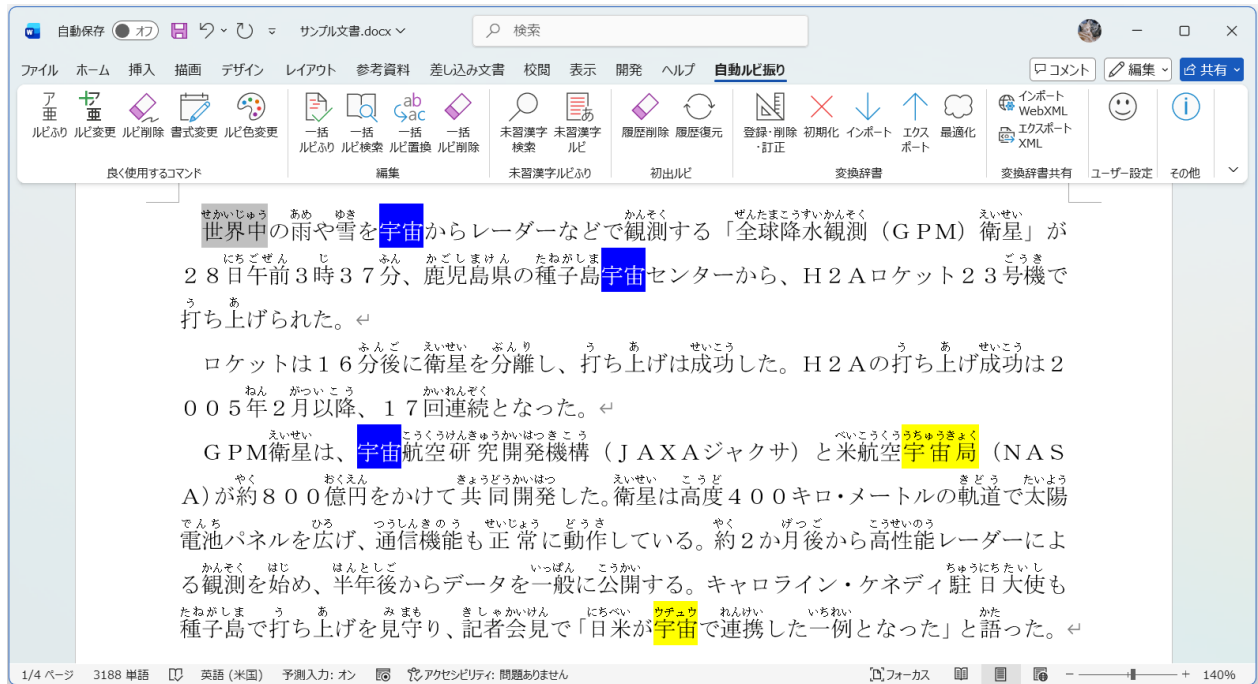
- ⇒ 該当する単語「宇宙」のルビ「うちゅう」が削除され、該当する単語の背景色が[ユーザー設定]ダイアログの[ヒットした単語の背景色]コンボボックスで指定した色に設定されます。また、処理結果はメッセージボックスで表示されます。
背景色を消すには、[ホーム]タブの[段落]グループ内にある[塗りつぶし]コマンドを使用して「色なし」を選択してください。



警告メッセージについて

下図は、選択範囲内のルビ付き単語「宇宙（うちゅう）」のルビ「うちゅう」を削除した結果で、3箇所が削除条件にヒットし、2箇所が要確認と判定されました。要確認と判定された場合、該当するルビ付き単語の背景色が「ユーザー設定」ダイアログの[警告時の文字の背景色]コンボボックスで指定した色に設定されます。

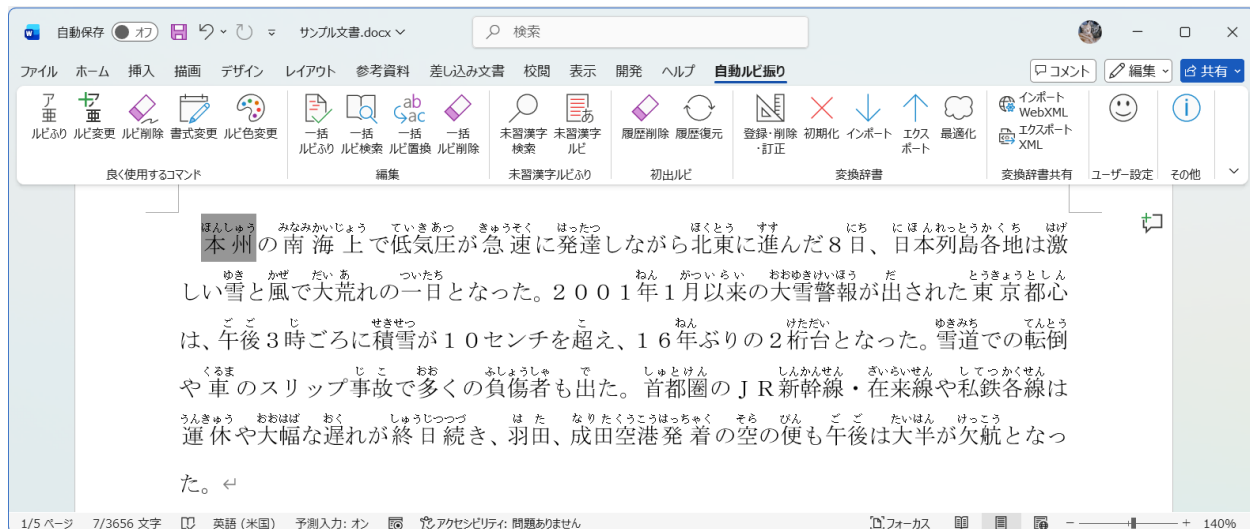
ルビ付き単語「宇宙局（うちゅうきょく）」は検索対象の単語「宇宙」ではありません。またルビ付き単語「宇宙（ウチュウ）」は検索対象の単語「宇宙」ですが、ルビが削除対象のルビ「うちゅう」ではありません。



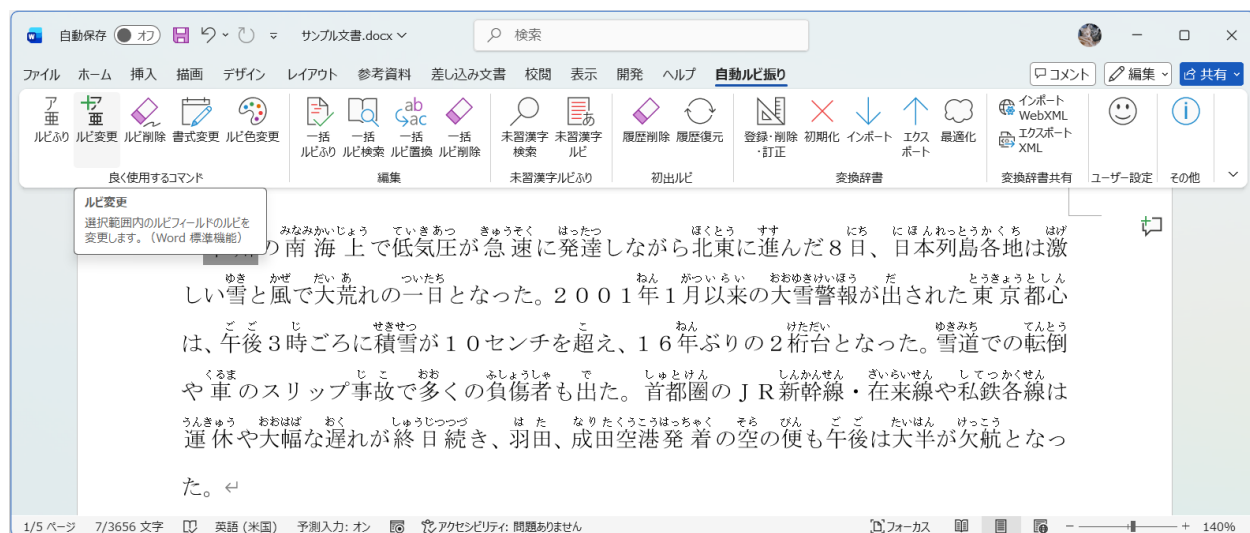
6. ルビ変更

ルビ変更は Word の標準機能で行います。ルビ変更の操作を説明します。

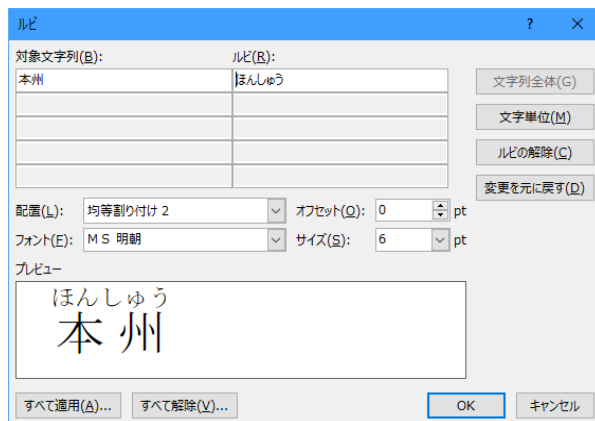
(1) ルビを変更したい範囲を選択します。



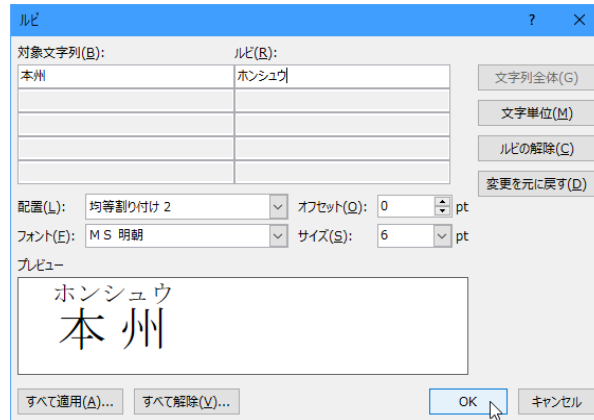
(2) [ルビ変更] コマンドをクリックします。



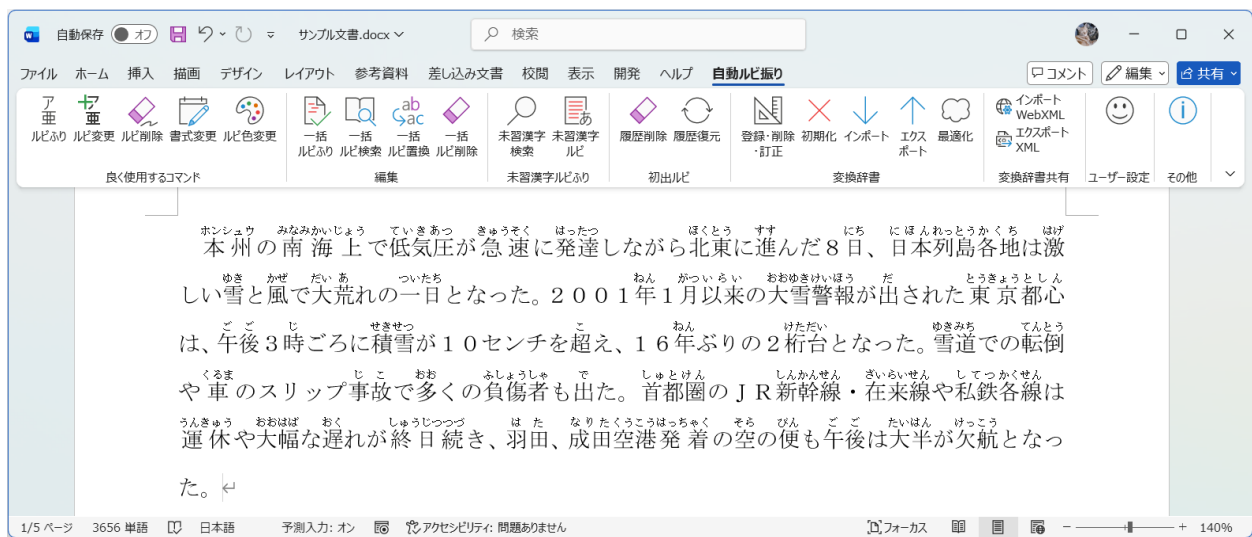
⇒ Word 標準機能の「ルビ」ダイアログが表示されます。



(3) ルビを変更し、[OK]ボタンをクリックします。



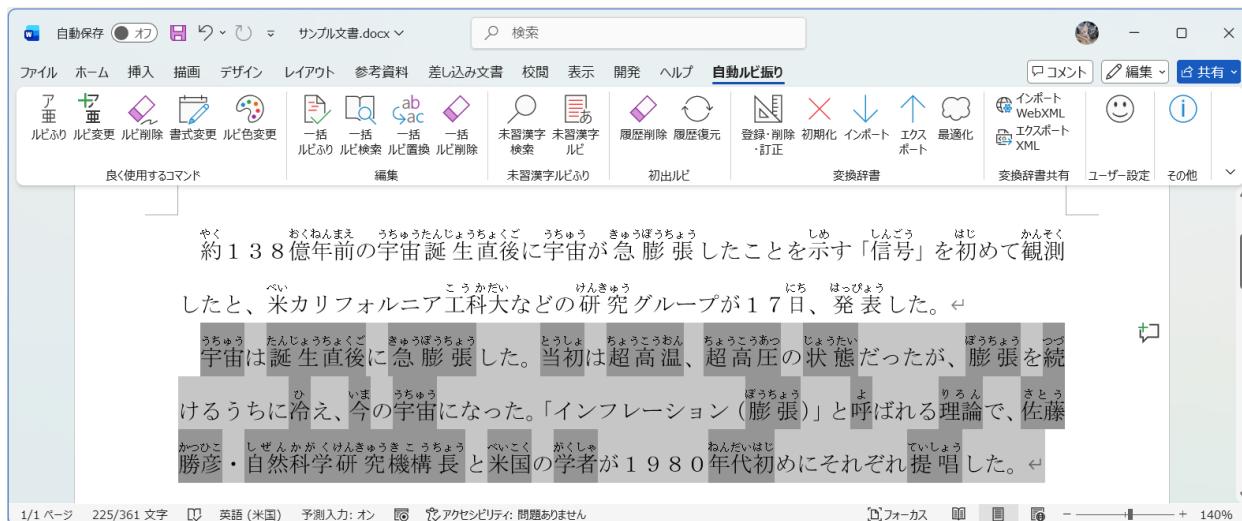
⇒ 単語「本州」のルビが「ほんしゅう」から「ホンシュウ」に変更されます。



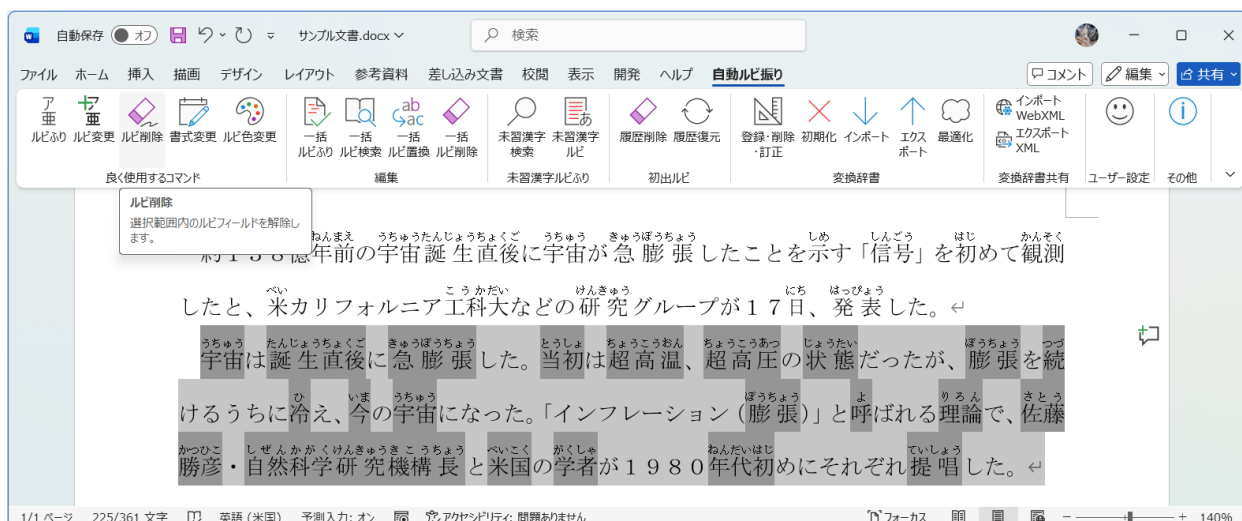
7. ルビ削除

ルビ削除の操作を説明します。

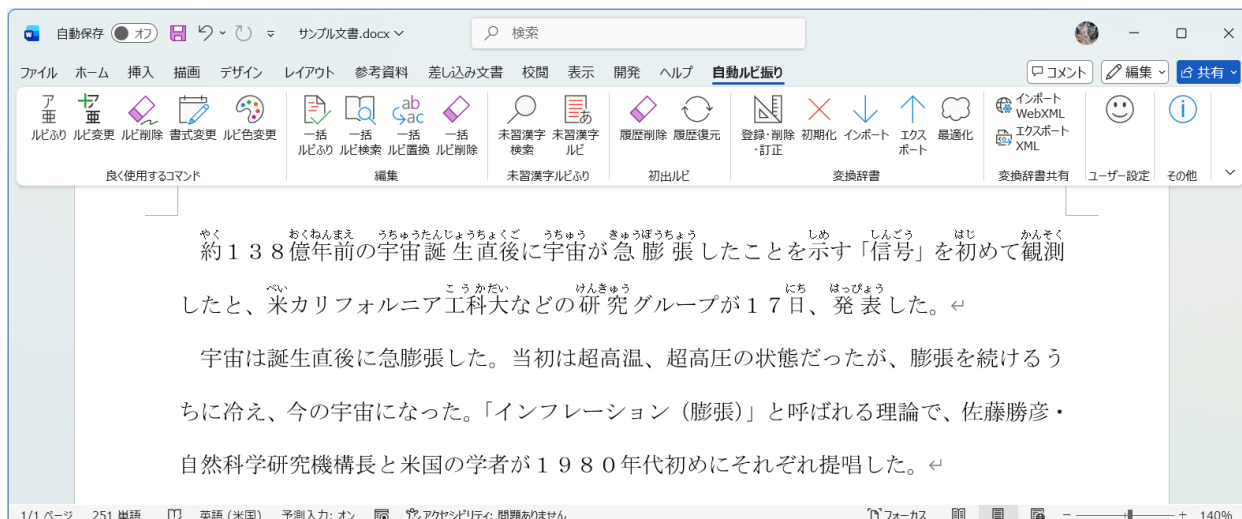
(1) ルビを削除したい範囲を選択します。



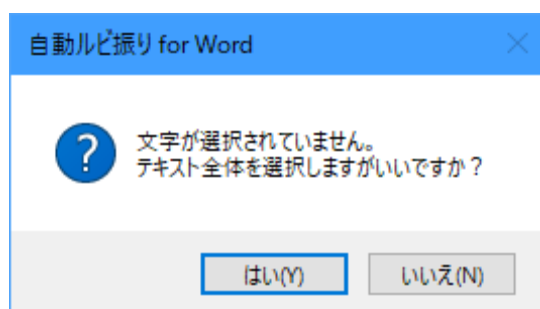
(2) [ルビ削除] コマンドをクリックします。



⇒ 選択範囲内のルビは削除されます。



範囲選択しないで「ルビ削除」コマンドをクリックした場合、文章全体が選択対象となります。
この場合、確認メッセージが表示されます。

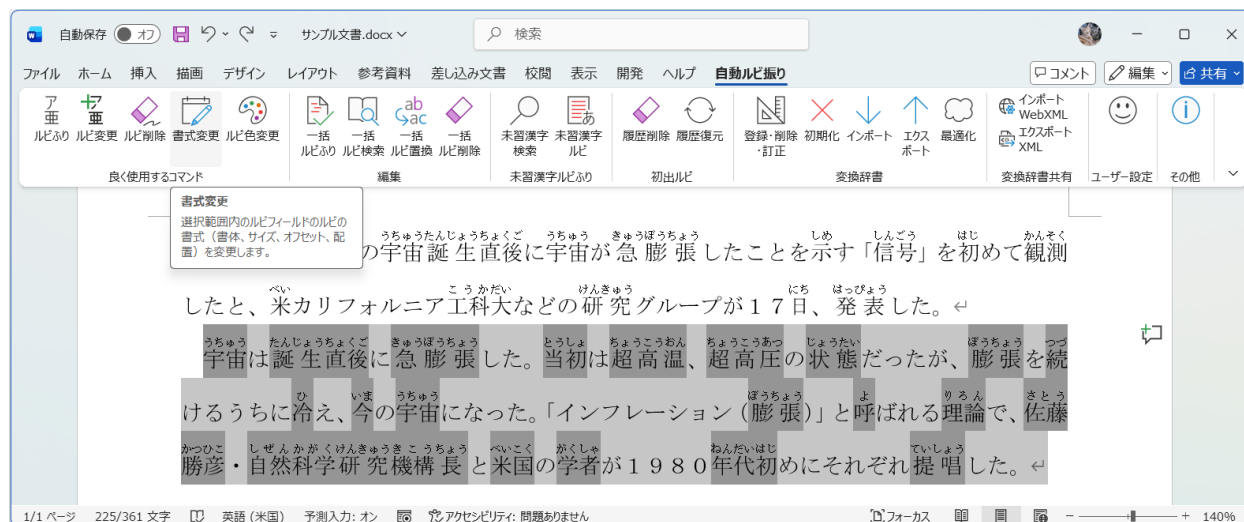


8.書式変更

既にルビふりした文章のルビの書式を一括で変更したい場合、[書式変更]コマンドを使用します。Word 標準機能の[ルビ]ダイアログからも書式変更できますが、ひらがなやカタカナにルビが入ってしまったり、一回で処理できる文字数が少なかったり、手間がかかります。

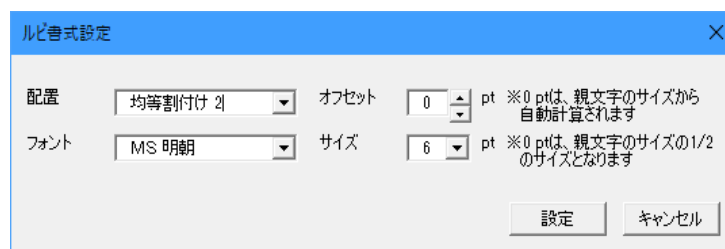
書式変更の操作を説明します。

(1) 書式変更したい範囲を選択し、[書式変更]コマンドをクリックします。



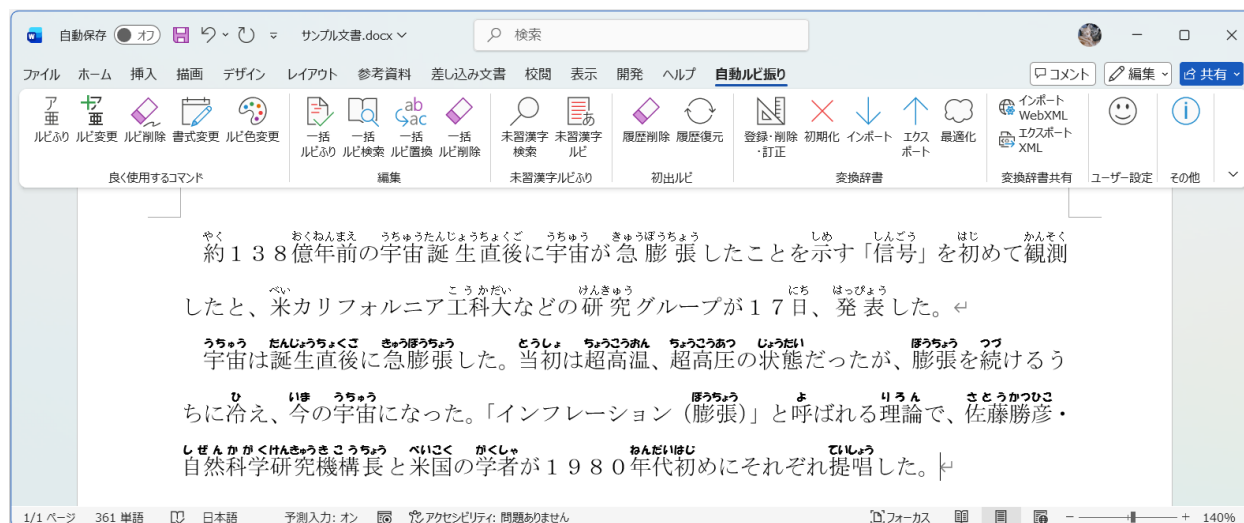
⇒ [ルビ書式設定]ダイアログが表示されます。

選択範囲の最初に出現したルビ付き単語のルビ属性が表示されています。



(2) 書式を変更し、[設定]ボタンをクリックします。

⇒ 選択範囲のルビの書式はすべて変更されます。下図はフォントを変更した例です。



9. ルビ振り時の変換辞書登録

本バージョンでは、ルビ振り実行中に変換辞書未登録の単語を検出した場合、その場で変換辞書への登録とモノルビ形式のルビ振りを同時に行います（ユーザー設定で「変換辞書登録」が有効な場合）。

バージョン 4.0 以前は、未登録の単語に対しては一旦グループルビで処理される仕様でした。そのため、利用者は対象の単語を変換辞書登録した後、再度ルビを振り直す必要がありましたが、本バージョンではこれらの作業を一度の操作で完了できます。

以下、文章内の「宇宙」「誕生」「直後」「研修」の 4 単語が未登録であるケースを例に、サンプル文書（図 9-1）を用いて説明します。旧バージョンでの実行結果（図 9-2）と比較してください。

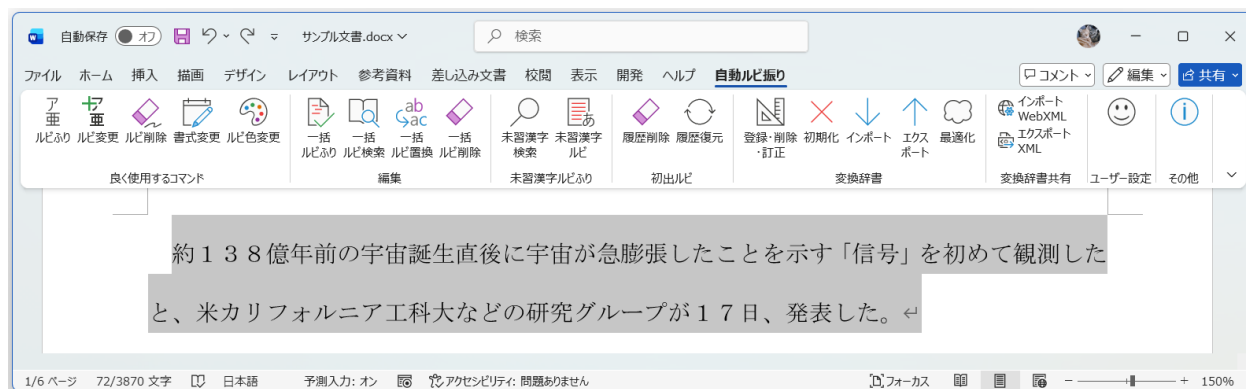


図 9-1 サンプル文書（ルビ振り前）

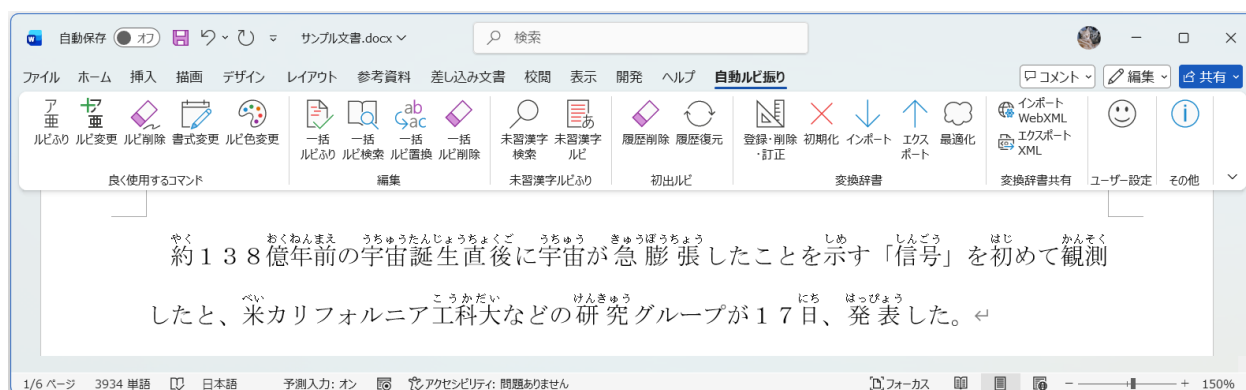


図 9-2 サンプル文書（バージョン 4.0 以前のルビ振り後）

選択範囲に変換辞書未登録の単語「宇宙」が検出されると、ルビ振り処理は一時中断され、[変換辞書登録] ダイアログ（図 9-3）が表示されます。

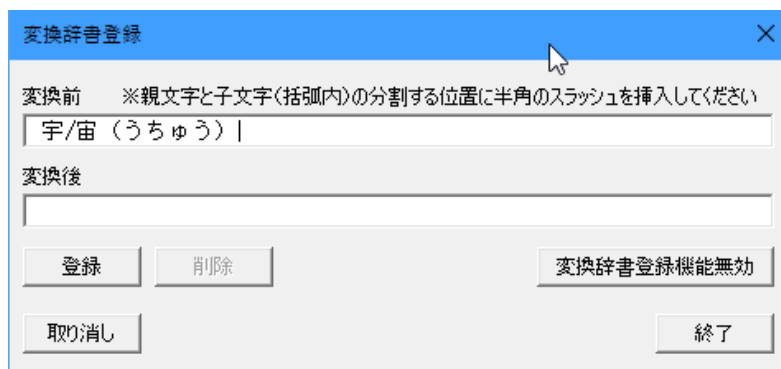


図 9-3 [変換辞書登録] ダイアログ

「変換前」テキストボックス内の単語「宇/宙」には既に分割位置のスラッシュが挿入されているため、ルビ「うちゅう」の該当位置にもスラッシュを挿入し、「登録」ボタンをクリックします。これで単語「宇宙」が変換辞書に登録されます（図 9-4）。

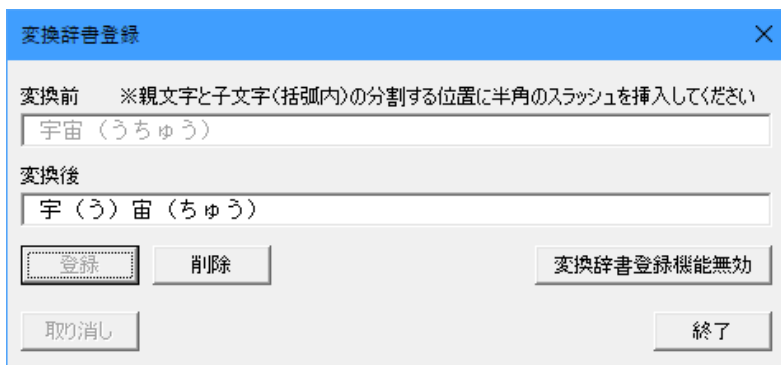


図 9-4 登録後の「変換辞書登録」ダイアログ

変換辞書への登録後に、登録した単語を削除したい場合は「削除」ボタンをクリックします。削除後のダイアログの状態を図 9-5 に示します。

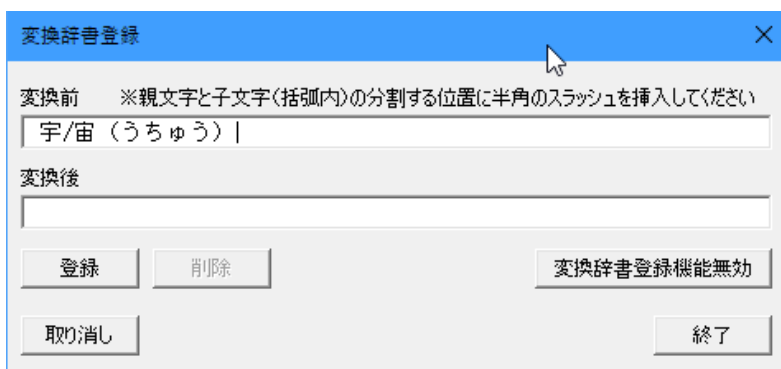


図 9-5 削除後の「変換辞書登録」ダイアログ

他の未登録単語についても、同様の操作を繰り返します。すべての登録が完了した後のサンプル文書を図 9-6 に示します。

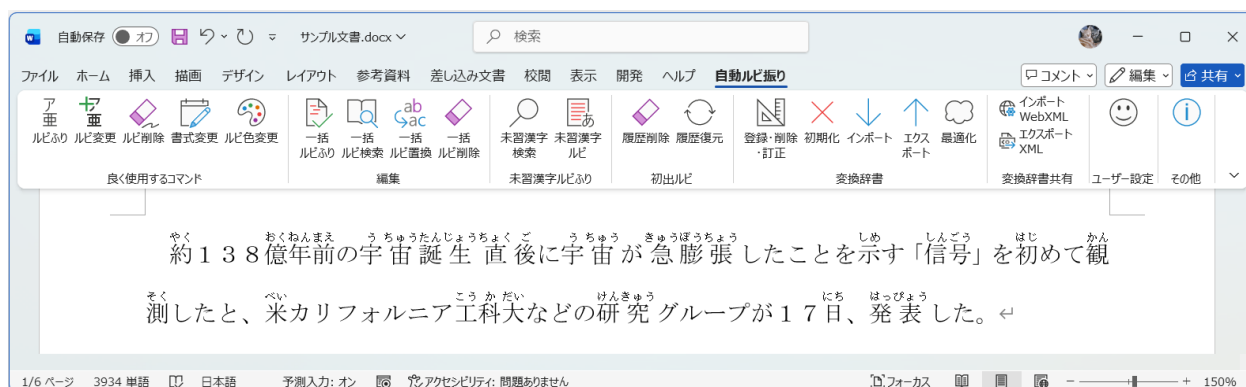


図 9-6 サンプル文書（ルビ振り後）

登録操作を中断する場合は、「変換辞書登録機能無効」ボタンをクリックしてください。

ルビの訂正と変換辞書の登録について（バージョン 5.1 以降）

バージョン 5.0 以前では、変換前のルビに誤りがある場合、一度変換辞書への登録を中断する必要が

ありました。Word の標準ルビ機能でルビを正しいものに訂正してから再度変換辞書へ登録するという、手間の掛かる操作が必要でした。

バージョン 5.1 以降では、ダイアログ上で直接ルビを訂正し、そのまま変換辞書へ登録できるようになりました。これにより、ルビの訂正から変換辞書までの一連の作業が一回の操作で完了します。例として、Word が単語「移動時」を「いどうとき」と誤判定した場合、ルビの訂正から変換辞書登録までの手順を以下（図 9-9、図 9-7、図 9-11）に示します。

図 9-8 単語のルビに誤りがある状態

図 9-9 変換前のルビを訂正した直後

図 9-10 変換前のルビにスラッシュを挿入後

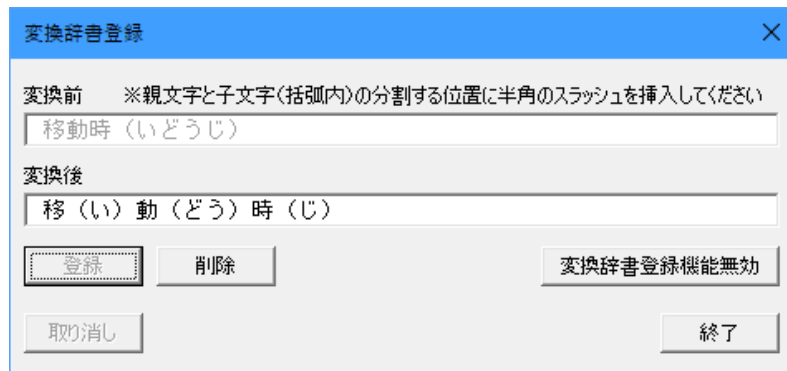


図 9-11 「登録」 ボタンクリック後

複数単語にまたがるルビの訂正と変換辞書登録について

ただし、選択範囲内で連続する複数の単語にまたがるルビの誤認識については、ダイアログ上での訂正だけでは対応できません。例として「夏目漱石」という文字列で説明します。

Word (Microsoft 365 など) は「夏目漱石」を「夏目漱」と「石」という 2 つの単語として誤認識する場合があります。このままグループルビを振ると、「夏目漱 (なつめす)」 「石 (いし)」 という不自然な単位で分割されてしまいます。本来は「夏目 (なつめ)」と「漱石 (そうせき)」の 2 単語として認識されなければなりません。

このように Word の単語認識自体に誤りがある場合は、以下の手順で変換辞書へ登録を行います。

- 手順 1. 「夏目」に対して Word の標準ルビ機能を用いてグループルビ「なつめ」を、「漱石」に対して同様にグループルビ「そうせき」を振ります。
 - 手順 2. 2 つのルビ付き単語「夏目 (なつめ)」 「漱石 (そうせき)」を選択し、[変換辞書登録・訂正・削除]ダイアログを使用して、それぞれのルビ付き単語を個別に変換辞書登録します。
- ※詳細は「10 変換辞書登録・削除・訂正」をご参照ください。

バージョン 5.1 以降では、変換辞書に登録された単語情報を優先することで、Word の単語認識をサポートします。一度「夏目」と「漱石」を変換辞書登録すれば、次からは自動的に正しい単位で分割され、精度の高いルビ振りが可能になります。

登録単語数が増えるほど、ルビ振り時の誤認識は減少します。なお、この仕組みはグループルビ、モノルビなど、ルビの形式を問わず有効です。

変換辞書に登録できない単語への対策について (IME の活用)

変換辞書に登録できる単語は「2 文字以上の漢字のみ」で構成される文字列に限定されています。そのため、「大みそか」のように「ひらがな」を含む単語は、本ツールの変換辞書には登録できません。

もし、ルビ振り時に「大 (だい) みそか」と誤変換される場合は、Windows 標準の日本語入力プログラム (以下、IME) のユーザー辞書に、単語「大みそか (読み：おおみそか)」を登録してください。

IME に登録することで、本ツールでのルビ振りが正しく行われるようになるだけでなく、他のアプリケーション (Excel、メール、ブラウザなど) での入力時にも誤変換が解消されるというメリットがあります。

10. 変換辞書登録・削除・訂正

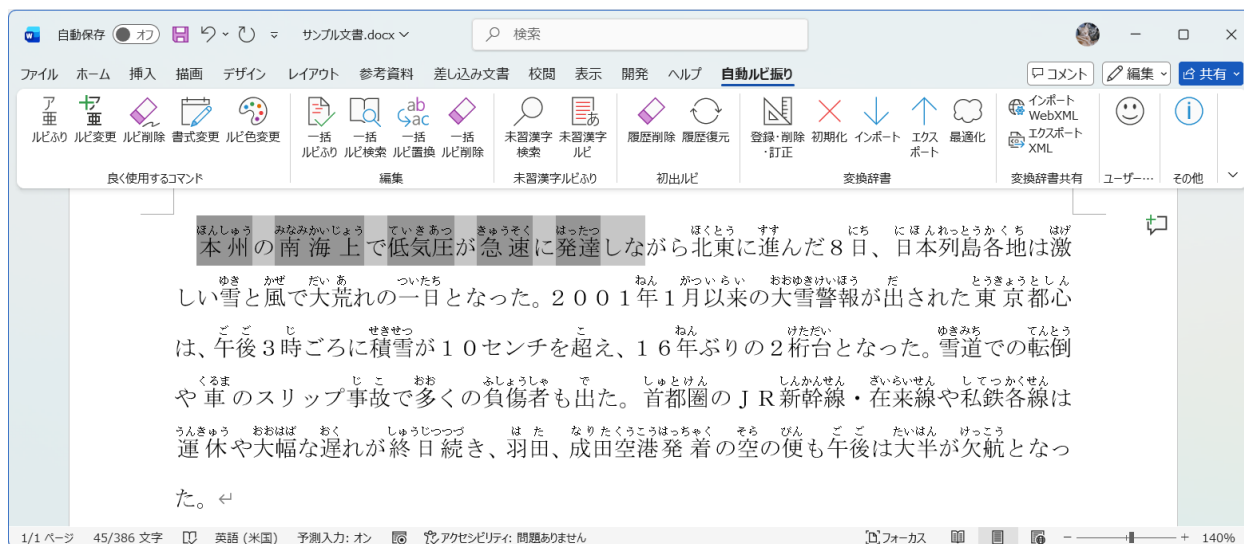
本章では、変換辞書への単語登録、削除、および登録内容の訂正手順について説明します。

本ツールでモノルビを振るには、対象となる単語のグループルビとモノルビをセットで変換辞書に登録しておく必要があります。これらの設定や、登録済み単語の管理（削除やルビの訂正）は、すべて[変換辞書登録・削除・訂正]ダイアログで行います。

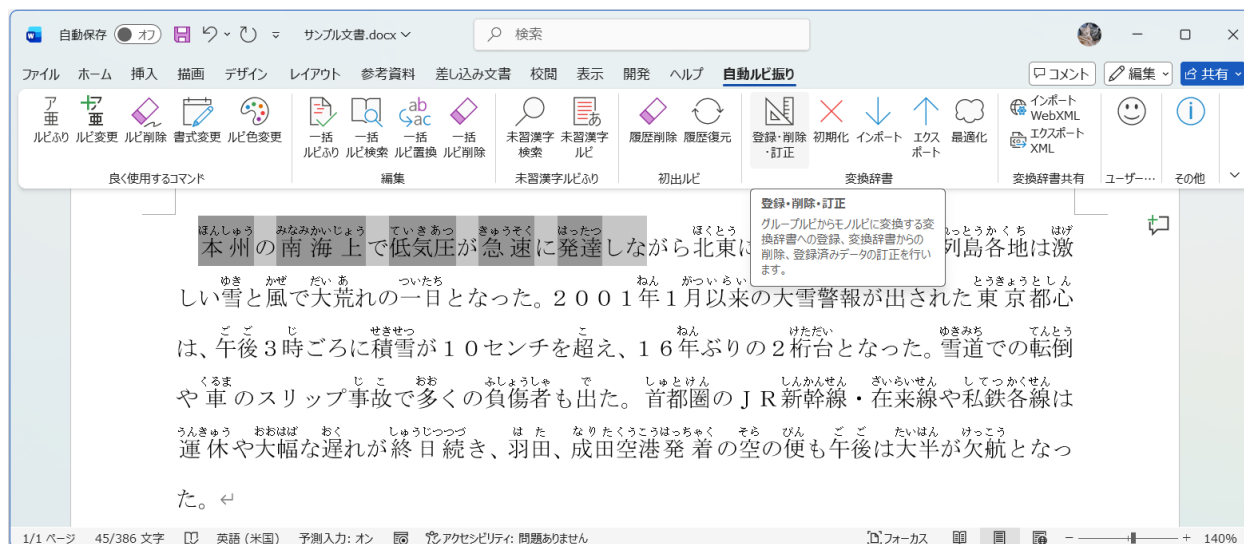
以下に、それぞれの具体的な操作方法を説明します。

10.1. 変換辞書への単語登録

(1) 変換辞書に登録したいルビ付き単語を範囲選択します。



(2) [変換辞書登録・削除・訂正] コマンドをクリックします。



⇒ [変換辞書登録・削除・訂正]ダイアログが表示されます(図 10-1)。

[変換前]テキストボックスには最初のルビ付き単語「本州（ほんしゅう）」が表示されています。[>] ボタンで次、[>>] ボタンで最後、[<] ボタンで前、[<<] ボタンで最初の選択単語へ表示を切り替えられます。

図 10-1 の例で、[変換後]テキストボックスは何も表示されていません。これは単語「本州」が変換辞書未登録であることを示します。未登録の場合、漢字 1 文字ごとの区切りを示す半角スラッシュ（以下、スラッシュ）が自動挿入されます。

図 10-1 [変換辞書登録・削除・訂正] ダイアログ

(3) ルビの分割位置に合わせてスラッシュを挿入・調整します (図 10-2)。

このとき、漢字自体を変更したり、全角スラッシュを使用したりするとエラーになります。

また、単語とルビのスラッシュ数が一致しない場合や構文エラーがある場合も登録できません。

登録実行前であれば、[取り消し] ボタンで入力前の状態に戻せます。

図 10-2 [変換辞書登録・削除・訂正] ダイアログ (スラッシュ入力後)

(4) [登録] ボタンをクリックします。

⇒ 登録が完了すると、[変換後] テキストボックスに漢字 1 文字ずつルビが振られた形式で表示されます (図 10-3)。

図 10-3 [変換辞書登録・削除・訂正] ダイアログ (登録後)

10.2. 変換辞書から単語削除

登録済みの単語を変換辞書から削除する手順を説明します (10.1-(4) からの継続として説明)。

(1) [削除] ボタンをクリックします。

⇒ 削除が完了すると、[変換後] テキストボックスが空欄になります (図 10-4)。

変換辞書登録・削除・訂正

変換前 ※親文字と子文字(括弧内)の分割する位置に半角のスラッシュを挿入してください

本州 (ほんしゅう) |

変換後

登録 削除 < >

取り消し 訂正 << >> 終了

図 10-4 [変換辞書登録・削除・訂正]ダイアログ (削除後)

10.3. 変換辞書登録済単語の訂正

登録されているルビの内容を書き換える手順を説明します（10.1-(4)からの継続として説明）。

- (1) [変換後]テキストボックス内のルビを訂正します（図 10-5）。

良い例ではありませんが、ルビをカタカナに訂正した例です。

ここで、単語を訂正したり、カッコを削除したり、カッコを含め最大登録文字数 32 文字を超える文字列など、構文に誤りがあると訂正時にエラーとなります。訂正実行前であれば、[取り消し] ボタンで元の状態に戻せます。

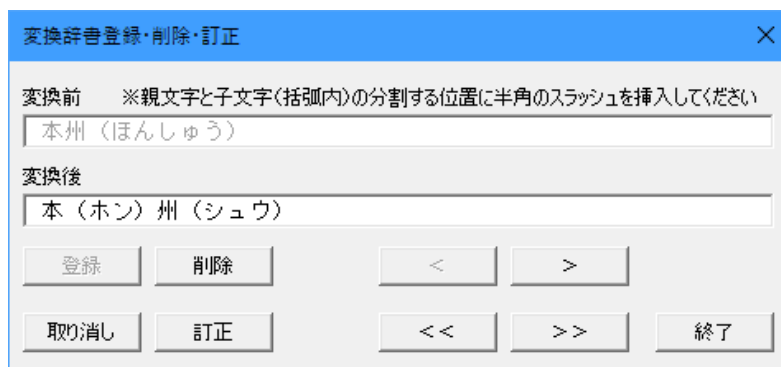
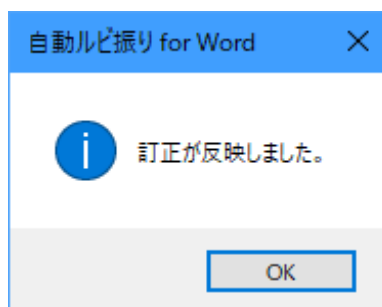


図 10-5 [変換辞書登録・削除・訂正]ダイアログ (訂正中)

- (2) [訂正]ボタンをクリックします。

⇒ 変更内容が変換辞書に反映されると、完了メッセージが表示されます。



11. 変換辞書の保守

変換辞書（ファイル名：MonoRuby.mdb）は、[ユーザー設定]ダイアログの[変換辞書保存フォルダ]テキストボックスで指定された場所に自動的に作成されます。

変換辞書は長期間の利用を前提とした重要なデータです。システム障害などによるデータ消失を防ぐため、定期的なバックアップを行ってください。

なお、本ファイルは重要な資産として保護されているため、アプリケーションをアンインストールしても削除されません。不要になった場合は、手動で削除をお願いします。

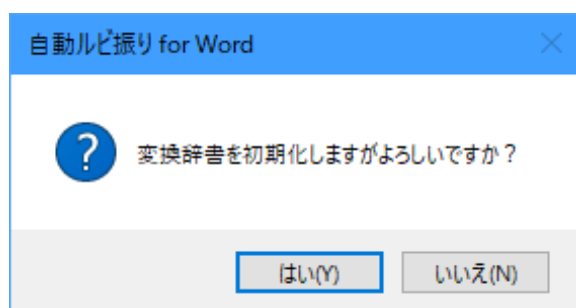
11.1. 初期化

変換辞書を削除し、新規に作成し直します。データが空の状態になるため、必要に応じて事前にエクスポート（11.2 項参照）を行ってください。

初期化の操作を説明します。

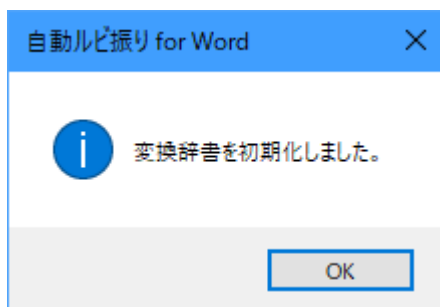
（１）[変換辞書初期化]コマンドをクリックします。

⇒ 確認メッセージが表示されます。



（２）[はい]ボタンをクリックします。

⇒ 初期化が正常終了すると、完了メッセージが表示されます。



11.2. エクスポート

変換辞書のデータをテキストファイル形式（文字コードは UNICODE（UTF-16））で出力します。

出力されるファイルの文字コードは UTF-16 です。一般的な Shift-JIS ではないため、テキストエディタで編集・保存する際は文字コードの設定にご注意ください。

ファイル名

「変換辞書_yyyymmddhhmmss.txt」の形式で、実行日時が自動付与されます。

例：変換辞書_20140220133033.txt（2014 年 2 月 20 日 13 時 30 分 33 秒に作成）

出力形式

全角カンマを区切り文字として、左側にグループルビ形式のルビ付き単語、右側にモノルビ形式のルビ付き単語を設定されます。ルビは全角のカッコ（）で囲まれます（図 11-1）。

操作（そうさ）, 操（そう）作（さ）
手順（てじゅん）, 手（て）順（じゅん）
行間（ぎょうかん）, 行（ぎょう）間（かん）
文字間（もじかん）, 文（も）字（じ）間（かん）
余白（よはく）, 余（よ）白（はく）
用紙（ようし）, 用（よう）紙（し）
行数（ぎょうすう）, 行（ぎょう）数（すう）
文字数（もじすう）, 文（も）字（じ）数（すう）
段組（だんぐ）, 段（だん）組（ぐ）
上下（じょうげ）, 上（じょう）下（げ）

図 11-1 エクスポートファイルの出力形式

エクスポートの操作を説明します。

(1) [変換辞書エクスポート] コマンドをクリックします。

⇒ [ファイル保存] ダイアログが表示されます（図 11-2）。

フォルダは、[ユーザー設定] ダイアログの[変換辞書保存フォルダ] テキストボックスで設定されたフォルダが初期表示となっています。ファイル名の日時には現在の日時が設定されています。

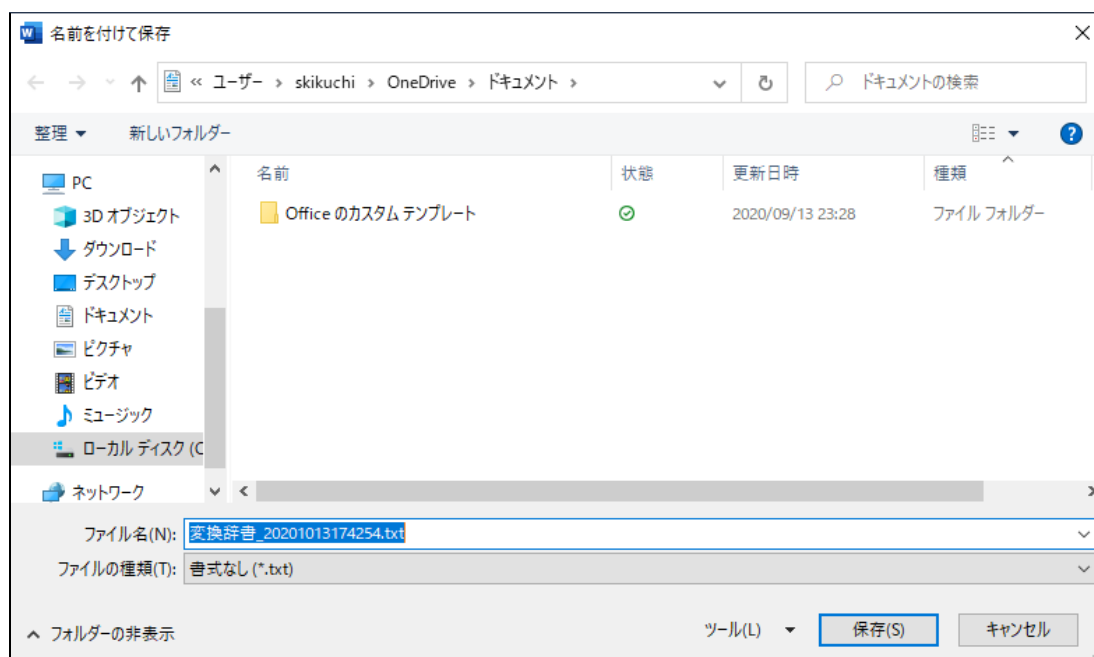


図 11-2 [ファイル保存] ダイアログ

- (2) 保存先を確認し、必要に応じてファイル名を変更して [保存] ボタンをクリックします。
⇒ エクスポートが正常終了すると、完了メッセージが表示されます (図 11-3)。

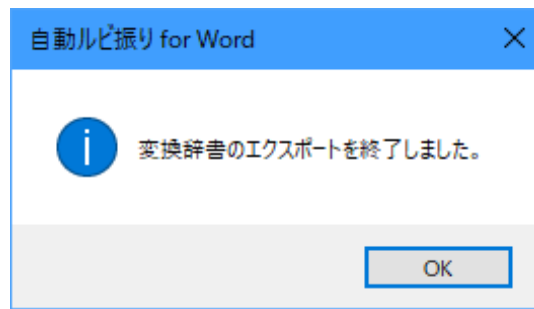


図 11-3 エクスポート完了メッセージ

11.3. インポート

テキスト形式の辞書データを取り込み、変換辞書へ追加登録します。既に登録済みの単語と同一のデータが存在する場合、その単語の登録はスキップされます。

データに構文エラーを検出した場合、辞書への登録処理は一切行われません。このとき、インポートファイルと同一の場所に、同一名称のログファイル (拡張子 .log) が生成されます。エラーログに記録された行数や内容を確認し、元データを修正してください。

インポートファイルとエラーログファイルの例

インポートファイル名「変換辞書_20140220133033.txt」

エラーログファイル名「変換辞書_20140220133033.log」

エラーログファイル出力形式

インポートファイルのファイル名、エラー箇所の行数・エラー内容が出力されます (図 11-4)。

```
#####  
# 変換辞書構文エラーログ #  
#####  
  
インポートファイル => C:\Users\Yskikuchi\Documents\変換辞書_20140223152304.txt  
  
行数 : 18  
内容 : カンマが存在しないか、2つ以上存在します。  
  
行数 : 61  
内容 : ルビ振り対象の文字列は修正できません。  
  
行数 : 1357  
内容 : ルビ振り対象の文字列は修正できません。
```

図 11-4 エラーログの例

インポートの操作を説明します。

(1) [変換辞書インポート] コマンドをクリックします。

⇒ [ファイル選択] ダイアログが表示されます (図 11-5)。

フォルダは、[ユーザー設定] ダイアログの[変換辞書保存フォルダ] テキストボックスで設定されたフォルダが初期表示となっています。

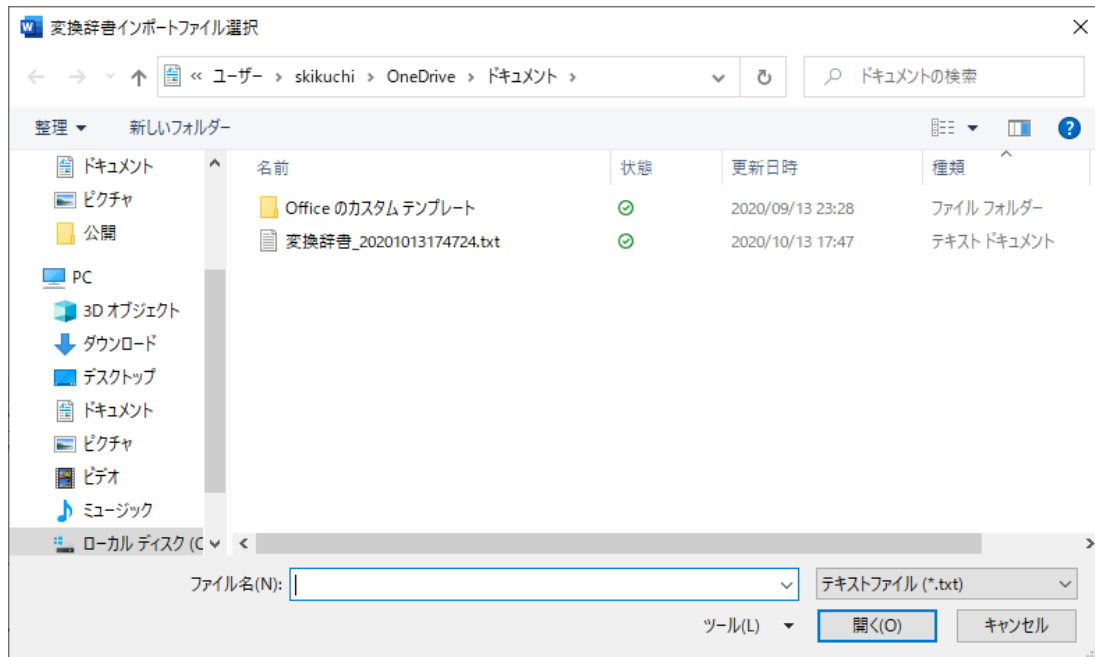


図 11-5 [ファイル選択] ダイアログ

(2) フォルダを指定し、インポートファイル選択して[開く] ボタンをクリックします。

⇒ インポートが正常終了すると、完了メッセージが表示されます (図 11-6)。

インポートファイル取り込み中に構文エラーを検出した場合、エラーメッセージが表示されます (図 11-7)。

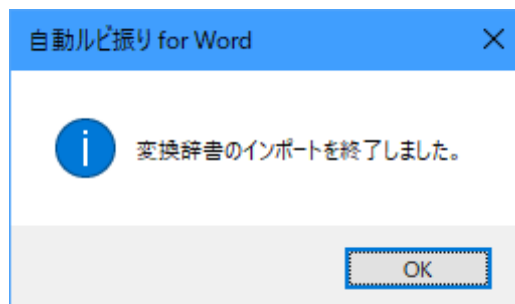


図 11-6 インポート完了メッセージ

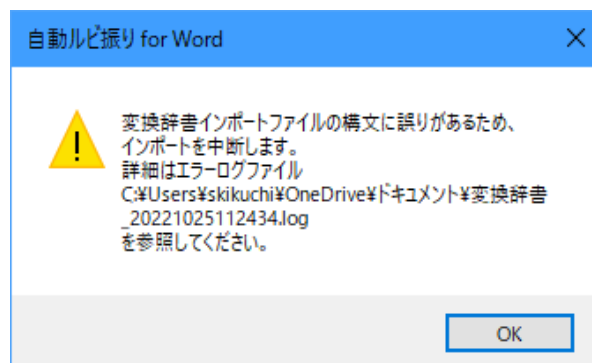


図 11-7 構文エラーメッセージ

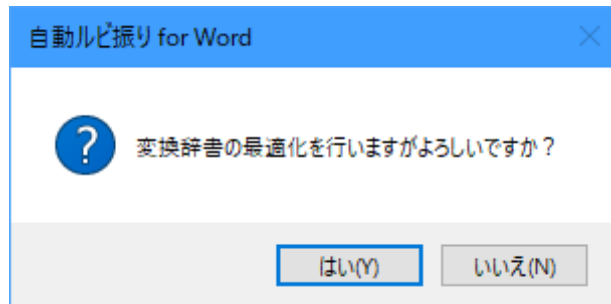
11.4. 最適化

変換辞書の更新を長期間繰り返すと、ファイルサイズが肥大化し、動作パフォーマンスが低下することがあります。定期的に最適化を実行してください。

最適化の操作を説明します。

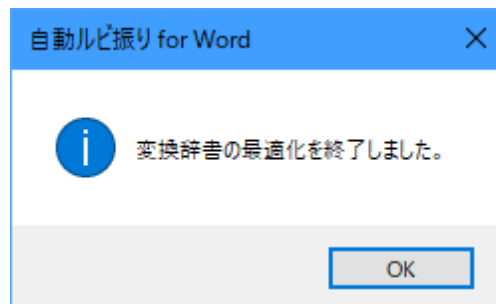
(1) [変換辞書最適化] コマンドをクリックします。

⇒ 確認メッセージが表示されます。



(2) [はい] ボタンをクリックします。

⇒ 最適化が正常終了すると、完了メッセージが表示されます。



12. 共通操作

[ルビふり]、[片仮名ルビふり]、[ルビ削除]、[書式変更]、[未習漢字検索]、[未習漢字ルビ]など、各コマンドに共通の操作です。ただし、[ルビふり]、[片仮名ルビふり]、[ルビ削除]の各コマンドは、ユーザー設定で初出ルビ振りが無効になっているときに限ります。

12.1. 元に戻す

クイックアクセスツールバーの[元に戻す]コマンド（）をクリックすると、操作前の状態に戻されます。[ルビふり]コマンド操作後の[元に戻す]コマンド操作前後を図 12-1、図 12-2 に示します。

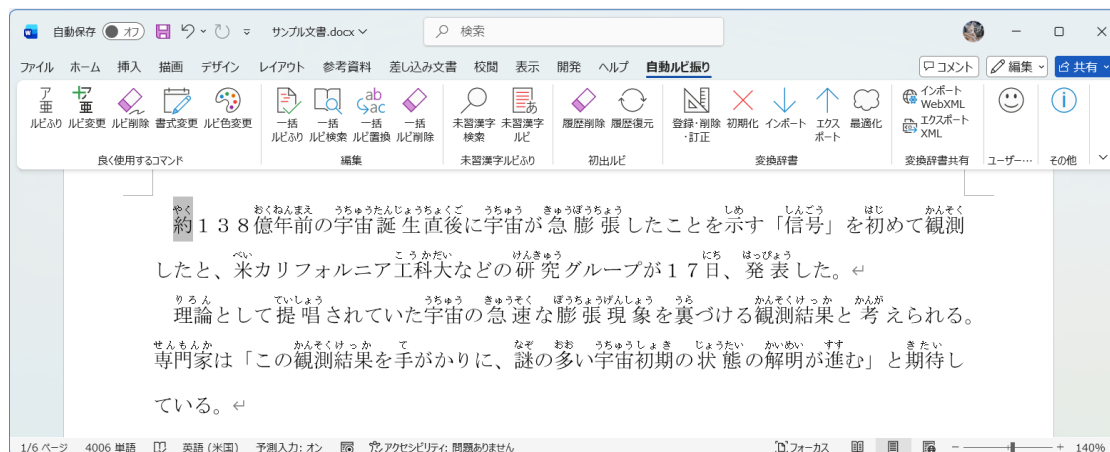


図 12-1 元に戻す操作前

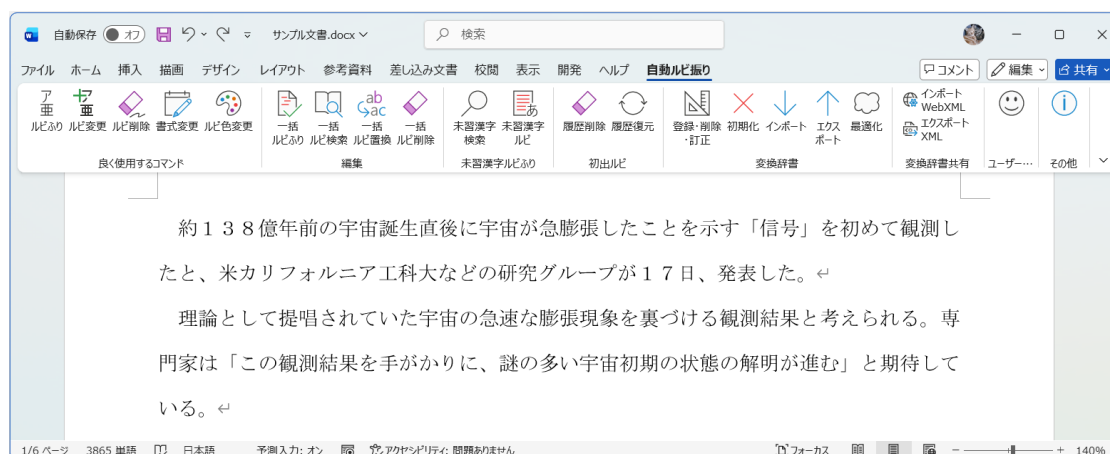


図 12-2 元に戻す操作後

12.2. やり直し

クイックアクセスツールバーの[やり直し]コマンド（）をクリックすると、直前に行った操作はやり直されます。[元に戻す]コマンド操作後（図 12-2）の[やり直し]コマンド操作前後を図 12-3、図 12-4 に示します。

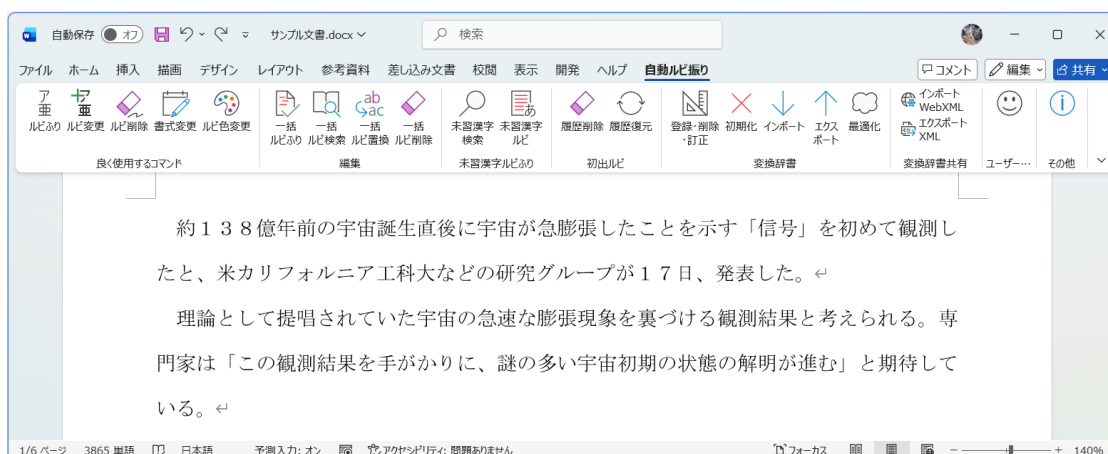


図 12-3 やり直し操作前

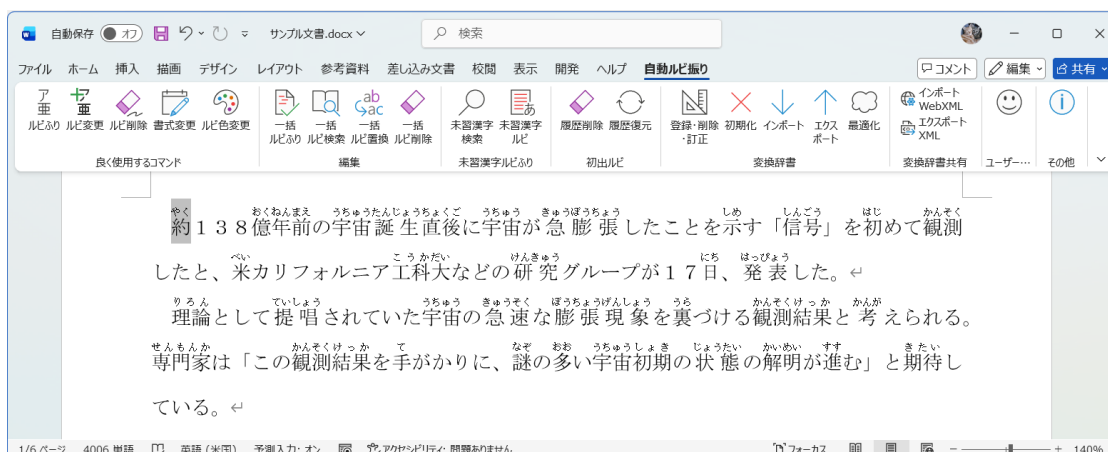


図 12-4 やり直し操作後

13. エラーメッセージ

ルビ振り実行中のエラーについて、エラー内容と対応策をまとめました。

13.1. 文字数エラー

(1) メッセージ

選択文字列の文字数が最大値（2048 文字）を超えています！

文字数を減らして再度実行してください。

(2) 内容

範囲選択してルビ振りした場合

範囲選択した文字数が 2048 文字を超えています。

範囲選択せずにルビ振りした場合

段落内の文字数が 2048 文字を超えています。

(3) 対応策

範囲選択してルビ振りした場合

範囲選択した文字数を 2048 文字以内にしてルビ振りしてください。

範囲選択せずにルビ振りした場合

エラーになった段落は、範囲選択で 2048 字以内にしてルビ振りしてください。

13.2. フィールドエラー

(1) メッセージ

選択範囲内にフィールド（組み文字、ルビ、変更履歴など）が存在します。

フィールドが存在すると実行できません。

(2) 内容

ルビ振り範囲内の文字列内に、フィールド（組み文字、ルビ、囲い文字、縦中横、変更履歴、図表番号）が存在します。

(3) 対応策

選択範囲にフィールドが入らないようにしてルビ振りしてください。

13.3. 表の列選択エラー

(1) メッセージ

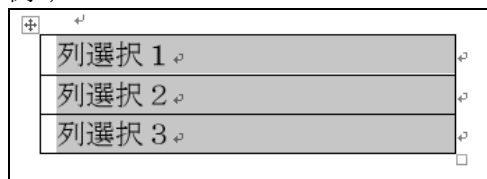
表内の列選択はできません。セル内のテキストを選択するか、行選択で実行してください。

(2) 内容

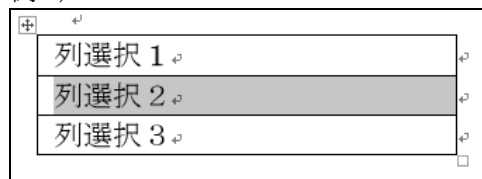
表内の文字列を列選択しています。

列選択の例

例1)



例2)

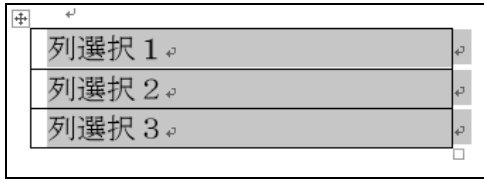


(3) 対応策

セル内の文字列を選択するか、行選択でルビ振りしてください。

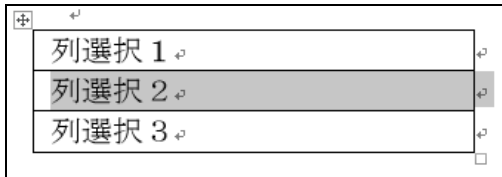
列選択 例 1)の対応策

下図のように行選択してルビ振りしてください。

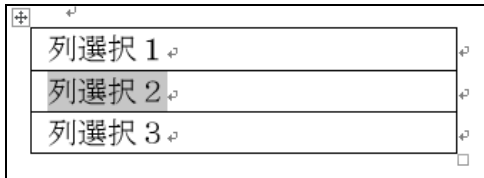


列選択 例 2)の対応策

下図のように行選択してルビ振りしてください。



または、セル内の文字列を選択してルビ振りしてください。



13. 4. 図形選択エラー

(1) メッセージ

選択範囲内に図形が存在する場合、複数の段落を選択することはできません。

(2) 内容

複数の段落が選択され、選択範囲内に図形がレイアウトされています。

(3) 対応策

図形がレイアウトされている段落を選択してルビ振りしてください。

範囲選択せずにルビ振りした場合、段落単位にルビ振りするのでエラーになりません。

13. 5. Word に起因するエラー

(1) メッセージ

Word の障害が考えられます。

エラーとなった段落を細分化して選択してください。

(2) 内容

段落内の選択された文字列に対してルビ振り実行中に、Word が本アプリケーションにあり得ない数値を返却しました。エラーとなった段落は赤色でマーキングされます。

エラーとなった段落のみルビ振りはスキップしますが、次の段落からルビ振りは継続します。

(3) 対応策

エラーになった段落の選択範囲を分割してルビ振りしてください。

または Word 標準のルビ機能でルビ振りしてください。